

第10回 石川県書写書道教育研究大会

目 次

1、挨拶・祝辞

| | | |
|-----------------------------------|-------------|---|
| 石川県書写書道教育連盟会長 第10回石川県書写書道教育大会長 | 藤 則 雄 ----- | 1 |
| 石川県教育委員会教育長 | 西 貞 夫 ----- | 2 |
| 七尾市教育委員会教育長 | 相 川 泰 ----- | 3 |

2、第10回石川県書写書道教育研究大会要項 ----- 4

3、公開授業学習指導案

| | | |
|---------------|---------------|---|
| 七尾市立天神山小学校 教諭 | 黒 崎 美 春 ----- | 6 |
|---------------|---------------|---|

4、研究誌上発表

| | | |
|-----------------|---------------|-----|
| 美川町立蝶屋小学校 講師 | 唐 津 清 美 ----- | 9 |
| 金沢大学教育学部附属中学校講師 | 磯 野 美 佳 ----- | 1 6 |
| 石川県立松任高等学校 教諭 | 田 中 学 ----- | 2 6 |
| 上越教育大学 助教授 | 押 木 秀 樹 ----- | 3 2 |

5、石川県書写書道教育連盟のあゆみ ----- 4 5

6、平成11年度石川県書写書道教育連盟役員一覧 ----- 5 1

7、第10回石川県書写書道教育研究大会役員一覧 ----- 5 3

8、石川県書写書道教育連盟規約 ----- 5 4

ご 挨拶



石川県書写書道教育連盟会長
第10回石川県書写書道教育研究大会長
藤 貝 雄

21世紀を見据えた新たな教育の流れが、書写書道教育においてはどのように方向付けられていくか、まさに正念場といえるこの時期に、石川県の諸学校で書写書道教育にたずさわっておられます教育者・研究者のご参加をえて、第10回石川県書写書道教育研究大会（記念大会）を、七尾市立天神山小学校、七尾サンライフプラザを主会場として開催することになりましたことは、誠に喜ばしいことであり、研究のご発表をされます方々やご参加下さいました各位とともに、心からの慶びを申し上げたく存じます。

さて、本連盟各位には、幼稚園から大学に至るまでの各校園・大学を、書写書道教育の一貫性・有機的連携性という目的のもと、全国にその例を見ない連盟化を全国に先駆けてなし遂げ、今年に至るまでの約10年有余の間、書写書道教育の発展のために努力され、本連盟会員相互の切磋琢磨と親睦のために心を盡くしてこられたところであり、その成果は徐々にではありますが、次第に評価を受けつつあるところであります。

また、第10回研究大会のために、ご遠路遥るばると、再度講演のためにわざわざご来県頂きました講師の大東文化大学教授 久米公先生、そして、本大会の開催に当たってご指導と各種の便をお計りいただいた県・七尾市教育委員会のご好意に、連盟会員一同を代表して心からの感謝の意を表する次第であります。また、本大会を目指して、今日に至るまで研究発表のために研鑽してこられました黒崎美晴先生、田中洋子先生、研究会の助言者・司会者としてご参加賜りました諸先生方、さらに、本大会を成功裡に導くべく会場の設営等にご協力とご盡力を賜わった天神山小学校の校長竹本義昭先生・教職員各位、そして就学前の子ども達の活動する姿を直に参観できる貴重な機会を設けて下さったあけぼの幼稚園の前田絹子園長先生はじめ諸先生方、七尾サンライフプラザ館長と職員各位、及び本連盟研究大会実行委員の各位に、心からの敬意と感謝の意を表したいと存じます。また、石川県下の各地より、本大会参加のためにご出席下さった先生方の熱意に対して、敬意を表したいと思います。

最後になりましたが、石川県書写書道教育連盟が、会員各位の不断のご努力とご協力とによって今後ますます発展し、会員各位には、ご健勝にて研究・教育に益々ご精進下さることを心から祈念しまして、第10回研究大会に当たってのご挨拶と致します。

祝 辞



石川県教育委員会教育長
西 貞 夫

石川県書写書道教育研究大会の開催を、心からお祝い申し上げます。また、貴連盟が平成元年の発足以来、県内の書写書道教育の充実・発展のために貢献され、このたび節目となる第10回の記念大会を迎えられましたことに深く敬意を表するものであります。

さて、現代は高度に発達した機械と、科学の文明の時代といわれています。簡単な操作で快適な生活空間がもたらされ、一見、豊かと思える日常が私たちの周りにあふれています。しかし、その日常の裏側で、人間にとってかけがえのない豊かな人間性、感性、情操等が失われつつあることも事実であります。そして、その影響が大人社会のみならず子どもたちにまで及んでいるのが現実であります。

このような状況の中、書写書道教育においても、「かく」ことをとおして、豊かな感性と情操を育てる観点がより一層重要になってまいります。「かく」こと、そして書をとおして美しいものを感じる心が耕されるならば、書写書道教育に携わる皆様にとってこれ以上の喜びはないのではないのでしょうか。

美しい文字で書かれた一枚の葉書を手にした時、ふと安らぎを覚えることがあります。美は人々の生活に潤いや余裕を持たせるものだからです。そして書で養われた感性は、ただ書のみを生かされるのではなく、我々の生活全般に美的な感性をもたらすものと考えています。

本県において、貴連盟が幼稚園を初めとして小学校、中学校、高等学校、盲・聾・養護学校、大学とあらゆる校種にわたる書写書道教育の団体として、活動されていますことは誠に意義深いことでもあります。今後とも日々のさまざまな授業実践の中で創意工夫を重ねられ、豊かな情操と表現力の育成に寄与されますことを期待いたします。

最後になりましたが、本研究大会開催にご尽力いただきました方々、研究発表や研究授業をなされた先生方に心から感謝申し上げ、深く敬意を表するとともに、本大会の成功と連盟の一層の発展をお祈りし、祝辞といたします。

祝 辞



七尾市教育委員会教育長
相 川 泰

年号が平成と変わったその年の8月に誕生した石川県書写書道教育連盟の第10回大会が、当七尾市において開催されるにあたり、まずもって心から歓迎申し上げます。

昭和50年代の初め頃より「書写」のねらいが定められる様になり、平成4年には、最大の課題でありました授業時数の確保のため、明確に字数等に関しても規定が設けられた記憶があります。この分野は、本市においては学校訪問時における全体研究や、校内研修等においてもまだまだ弱い研究分野であります。この機会にもう一度現在にいたるまでの書写書道教育を振り返りながら、よりよきあり方の研究をさせていただきたいと思えます。また、そうした機会を与えて下さったことに感謝申し上げます。

本日は天神山小学校において、公開研究授業・研究協議、そして久米公先生による記念講演により、全員相互の親睦を図りながら、「基礎基本をふまえて豊かな心を育てる書写書道教育」の達成のため、書写書道教育と書道文化の充実に努められる、第10回の節目の大会に改めてお祝い申し上げます。

書写書道教育は家庭教育のスタートであり、生涯教育の中心的なものであります。国際化時代の中にあって書写書道は、世界に類を見ない日本独特の伝統芸能であろうと思えます。こうした事が幼稚園から大学までの6校種からなる連盟の結成となり、互いのつながりの中で実践研究がなされ、ローテーション方式による研究大会等を通して互いの向上と、県下全般への広がりや定着に努力されていることに対し、敬意を表する次第であります。

終わりにあたり、科学技術の進歩がめまぐるしく新しい文化を造りあげていく複雑多岐な時の流れの中にあって、こうしたものと積極的に関わり合いを持ちながら、時を越えてこの教育が連盟の発展とともに充実されん事を期待して止みません。

本大会開催にご尽力されている関係の皆さん、本当にご苦労様です。そしてありがとうございます。

第10回 石川県書写書道教育研究大会要項

1. 研究大会テーマ

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」

2. 期日 平成 11年 10月 19日 (火)
3. 主催 石川県書写書道教育連盟
4. 共催 七尾市教育委員会
5. 後援 石川県教育委員会・石川県私立幼稚園協会
6. 会場 七尾市立天神山小学校・七尾サンライフプラザ
7. 記念講演 演題「書写書道教育における今日的課題」

講師 久米 公 先生：大東文化大学教授：

8. 日程

10:00 10:30 12:00 13:00 13:40 14:25 14:45 15:15 16:30

| | | | | | | |
|----|------------------------|-------|----|------------------|------------------------|-------------|
| 受付 | 研究協議会Ⅰ (七尾サンライフプラザ) | 昼食・休憩 | 受付 | 公開授業 (天神山小学校) | 研究協議会Ⅱ (七尾サンライフプラザ) | 全体会 記念講演 |
|----|------------------------|-------|----|------------------|------------------------|-------------|

9. 研究協議会Ⅰ (10:30~12:00) 【七尾サンライフプラザ視聴覚室】

| 内 容 | 提 案 者 |
|------------------------|-----------|
| 「これからの書写書道教育のあり方をめぐって」 | 研究紙上発表の各氏 |

| | 助 言 者 | 司 会 者 | 記 録 者 |
|--------|------------------------------------------|-----------------------|----------------------------------------------|
| 研究協議会Ⅰ | 大東文化大学教授 久米 公 石川県教育委員会指導主事 野川 徹 | 県立金沢中央高等学校教諭 久田 英夫 | 県立鶴来高等学校教諭 広畑 登代子 珠洲市立日置小学校教諭 寺井 純子 |

10. 公開授業 小学校(13:40~14:25) 【天神山小学校(3階)5年2組】

| 校種 | 学年 | 題 材 名 | 授 業 者 |
|-----|----|-----------|----------------------|
| 小学校 | 5 | 字配り「あこがれ」 | 黒崎 美晴 (七尾市立天神山小学校教諭) |

11. 公開保育 幼稚園(13:40~14:25) 【天神山小学校(1階)プレイルーム】

| 校種 | 学年 | 題 材 名 | 保 育 者 |
|-----|--------------|-----------|------------------------------|
| 幼稚園 | 5歳児 ひまわり組 | 楽しい幼稚園まつり | 田中 洋子 (七尾市立あけぼの幼稚園御祓教場教諭) |

12. 研究協議会Ⅱ(14:40~15:15) 【七尾サンライフプラザ視聴覚室】

| | 助 言 者 | 司 会 者 | 記 録 者 |
|--------|---------------------------------------------|------------------------|-----------------------------------------------|
| 研究協議会Ⅱ | 小松市教育委員会指導主事 山本 裕 金沢市立三馬小学校教諭 林 道子 | 七尾市立東部中学校教諭 濱 中 利 博 | 七尾市立朝日中学校教諭 佐原 加津美 津幡町立条南小学校教諭 新谷 幸一 |

11. 全体会(15:15~16:30)

- ・挨拶 石川県書写書道教育連盟会長
- ・祝辞 石川県教育委員会教育長・七尾市教育委員会教育長
- ・記念講演 久米 公 先生(大東文化大学教授)
演題 「書写書道教育における今日的課題」

第5学年 国語科書写指導案

七尾市立天神山小学校 5年2組
授業者 黒崎 美春

1. 単元名 字配り 「あこがれ」

2. 単元の目標

[関心・意欲・態度]

平仮名の文字の大小や中心に気をつけて、用紙に字配りよく書こうとする。

[表現]

字配りよく書くための基準について話し合うことができる。

[思考・判断]

字配りよく書くための基準を理解し、自己の課題を持ち、練習に取り組むことができる。

[知識・理解・技能]

曲がりや折り返しの筆使いに注意し、字配りに気をつけてひらがなを書くことができる。

3. 指導にあたって

(1) 題材について

この単元で初めて字配りを学習する。4字ともひらがななので、難しい題材だと思う。そこで、まず、「ひらがな4字に挑戦してみよう」ということで、漢字との違い、例えばやわらかい感じがするとか、丸みのある線が多いなどを、子どもたちに感じ取らせたい。その後、半紙におさめるにはどんな大きさにすればいいのか、中心は、どうとればいいのか等について学ばせていきたい。そして、4字がうまくおさまる書き方を理解させる。

今までの書写の授業においても、教師が練習用紙を用意したり、また、書きやすくするために半紙を折ってみたり、線を引いたり、自分で工夫している子もいた。本単元においても、同様に進めていきたいと思う。

(2) 児童について

45分間で、少しでも上達できればそれで良しとする、そんな授業を心がけてきた。上達の素晴らしい子をほめてあげたり、学級通信に載せたりして、成果を認めてあげる機会を多く与えてきた。普段の授業で、ノートの字は決してきれいとはいえない子がみんなから讃えられることも多かった。

1学期末には、「書写が好きになった」16人「変わらない」8人(27人中)というアンケート結果が得られた。

・字がうまくなった

・筆で書くときれいに書くことができるようになった

という理由が多かった。

自分の字が上手になったと、周りの人からも認められ、自分自身もそう感じたとき、字を書くことが楽しくなり、次第に好きになっていく。ほんのちよつとの上達ではあるが、それが子どもを伸ばしていくのだな、と実感した。

「あこがれ」を書かせるにあたっては、次のことが予想さる。

・半紙いっぱいを書く

・4字もあるので小さく書く

・ひらがなが書きにくく、筆先を回しながら書く

・全体のバランスがとりにくい

以上のことから、字配りよく書くことは難しいと思えるが、それだけに、めあてが一つでも達成できれば、満足感も得られる題材だと思う。

4. 指導計画(3時間)

第1時 文字の大きさに気をつけて書く

第2時 中心に気をつけて書く(本時)

第3時 字配りに気をつけて練習し、まとめ書きをする(硬筆に生かす)

5. 本時の学習

(1) ねらい

・行の中心に文字の中心をそろえ、字配りよく書くことができる。

・自分の課題を持って練習することができる

(2) 展 開

| 離 | 学 習 活 動 | 教 師 の 支 援 ・ 動 き | 評 価 ・ 準 備 |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 導 入 3 | 1. 本時の学習のめあてをつかむ 〈学習のめあて〉 ・ 文字の中心に気をつけて書こう | ・ 前時の学習に加え、さらに字配りよく書こうとする意欲付けをする | ・ めあてが確認できたか |
| 展 開 | 2. 基準について話し合う (1) 手本と比べて自己批評する (2) 基準を設定する <基準> 「あ」 2画目の始筆 「が」 1画目の曲がり | ・ 上下の文字の中心はどうなっているか、前時のまとめ書きを自己批評するよう伝える ・ 手本や、示範の字から考えるよう助言する 「こ」 1画目の真ん中 「れ」 2画目の右上がりの直線の真ん中よりやや右側 | ・ 文字の中心について、よくみているか ○水黒板 |
| 32 | (3) 各自のめあてを決める 3. 練習する | ・ 基準と重複しても良いとする ・ 自己批評しながら取り組むようすすめる ・ 練習用紙が必要な子には選択させ、与える ・ 相互批評もするよう助言し、上達のようなすを見せ合うよう声かけをする | ○学習カード ・ 基準がわかり、自分のめあてをもつことができたか ・ 基準やめあてを意識して練習しているか ○練習用紙 |
| 終 末 10 | 4. 本時のまとめをする (1) まとめ書きをする (2) 自己評価する (3) 成果を発表し合う (4) 後始末をする | ・ 各自の作品の上達を認めてあげる ・ 次時へのめあてをもたせ、意欲付けをする | ・ 文字の中心に気をつけて書くことができたか |

Memo :

[The main body of the page is a large, empty rectangular box, likely representing redacted content or a placeholder for a memo's body text.]

研究紙上発表

国語科書写の横断的、総合的な学習への関連づけについて

－「お年寄りに運動会の招待状をとどけよう」の実践を中心に－

美川町立蝶屋小学校 唐津 清美

1. はじめに

本年、級外として5、6年生の各1クラスずつの書写の授業を担当することとなり、初めて2学年の書写を受け持つ機会に恵まれた。これをよい機会ととらえて自分の書写を見直してみることにした。

児童は、事前に次の日の書写の授業の予定を聞きにくる。実際、授業に向かうときちっと用具をそろえて待っている。さすが、高学年である。こちらも、児童に楽しく充実した授業をしなければならないという思いがいっぱいであるが、どんな工夫ができるだろう。

幸い、石川郡学校教育研究協会の国語部会の書写部会で、お互いの実践報告を交換しながら学ぶことができ、皆さんから多くのことを教えていただいた。今年の石学協のテーマは、「書写における今日的課題」－総合的な学習と書写のかかわりについて－というものである。総合的な学習は、今までの教科の枠をこえて、横断的・総合的な学習を進めるものである。今回、書写と他の学習を意図的に関連づけて「総合的な学習」と位置付け、単元構成を試みることにした。

2. 研究の内容

「地域の人との関わり」について、本校の教育をながめたときに、地域のお年寄りの方々との関わりがあげられる。例年、祖父母や近所のお年寄りに運動会の招待状を出して、ご案内して大勢の方にお越しいただいている。皆さんは、このことを毎年楽しみにされているようである。「お年寄りの運動会への招待状」を作る際に、前記のテーマに沿い、書写における「文字の中心・行の中心」の学習を通じて養った力を関連づけて展開する授業を考えみた。

単元 第6学年 「お年寄りに運動会の招待状をとどけよう」（文字の中心・行の中心）

<単元について>

- (1) 新学習指導要領では、5・6学年の書写の指導事項は「文字の形、大きさ、配列などを理解して、読みやすく書くこと」とある。現行の学習指導要領と違うところは、新た

に「読みやすく」ということばが、付け加わったところである。これは、読み手への伝達効果を考えて書くことの必要性をいっているのだろう。どうすれば、読みやすくなるのか、1つ1つ確認しながら、学習していくことが、必要である。

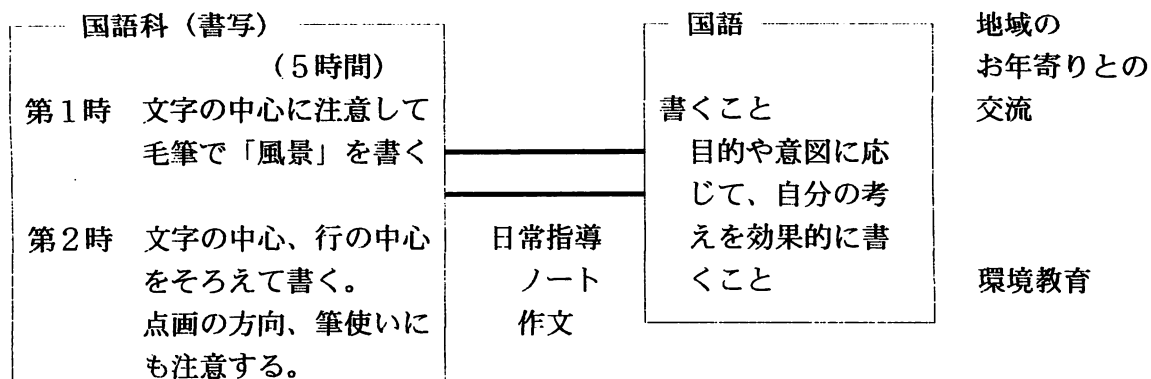
また、「毛筆を使用して、点画の筆使いや文字の組み立て方を理解しながら、文字の形を整えて書くこと」「毛筆を使用して、字配りよく書くこと」という指導事項が、次に続いている。今回、「点画の筆使い」が、加わった。毛筆という用具の利点は次のようなことであると思われる。穂先の柔軟さにより、筆圧を吸収し、強弱のあるリズムカルな運筆を体験することができる。この点を生かすことにより、点画の基本的理解がさらに深まることにつながるのではないかと考えている。

(2) 児童は第3学年より、毛筆を学習しており、筆使いにも慣れてきている。書塾に通っている児童も多く、文字を書くことが好きな子が多い、というのが私の率直な感想である。しかし、学年が上がるにつれて、友達の作品と自分の作品を比較して、「〇〇さんうまいよね。」とお互いに言い合う姿がよく見られる。一人ひとりが課題に真剣に取り組んでいることこそ大切なことであり、それぞれが1時間の自分の学習の成果を感じ取ることに重きを置いた授業となるように努力しなければならないと考えている。

(3) 本時は「招待状を書く」ということを、文字の中心・行の中心を学習した発展として取り扱った。新学習指導要領の国語科の総括の目標に、「伝え合う力」が加わった。この「伝え合う力」を、これからさらに大事にしていかななくてはならない。この授業は、「書写」で養った力を日常に生かすことをねらった取り組みの一つであるが、読み手を意識して書くということをこれからも継続して指導していくつもりである。

<単元構造（指導計画）>

お年寄りに運動会の招待状をとどけよう



| | | |
|---------------------------------------------------|---------------------------|---------------------------------|
| <p>第3時 封筒の書式について理解し、文字の中心、行の中心に注意してまがらないように書く</p> | <p>日記 連絡帳 掲示物</p> | <p>道徳</p> |
| <p>第4時 文字の中心、行の中心</p> | | <p>主として他の人のかかわりに関すること</p> |
| <p>第5時 文字の大きさに気をつけて読みやすいように招待状を書く</p> | | <p>時と場をわきまえて礼儀正しく、真心をもって接する</p> |

<授業の展開>

- (1) 本時の目標
1. 文字の中心、行の中心、文字の大きさに気をつけて招待状を書くことができる。
 2. お年寄りが読みやすいように心をこめて書くことができる。

(2) 学習の展開

| 学習活動 | 子どもの意識の流れ | 教師の支援活動 |
|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>本時の目標</p> | <p>運動会にお年寄りを招待するための招待状を書こう。</p> | <p>前時までの学習のかかわりから、本単元の目標は、「文字の中心、行の中心」に注意して学習することを、知らせる</p> |
| <p>試書をもとにして基準の確認</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 文字の中心と行の中心が重なるようにする。 2. 一般的にかなは、漢字より小さくする。 3. ほどよい字間、行間で書く。 <p>一人ひとりが、課題意識をもつ。</p> | <p>本時は、前時に練習として下書きしたものをもとに学習を進める。</p> <p>実際の下書きをもとに話し合いをする。いくつか提示する</p> <p>個別に助言をする。</p> |

| | | |
|--------|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 練習と批正 | 下書きをみながら、基準に注意して練習する。 | 練習用紙が、必要な児童には配布する。 |
| 清書をする | 清書を色ケント紙に書く。 | |
| まとめと評価 | 清書したものを下書きと比較して自己評価をする。 | 相互評価をする。 お互いの清書を見合わせながら、話し合いをする。 評 下書きをみて、課題にそって、清書をしている。 読みやすい招待状になっている。 |

<資料>

浜本亮太

9月19日に運動
会があります。
ぼくたちは、ここま
なごするのので、
きてください!!
待っています。

清書

9月19日に三つん
どろが、ありま
ます。ぼくたちは
ここで、なごするの
で、きてください!!
待っています。

ちよらや
6年一組
浜本亮太

下書き 字間、行間に気をつけるように
助言した。

資料1

おじいちゃん、おばあちゃんへ
今年の運動会は小学校生活最
後の運動会です。最上級生で最
後の運動会。ぼくの係は応えん係です。
去年もぼくは応えん係をやりました。
ご笛やスタンプなどもやって、それを
じいちゃん、おばあちゃんに見てもらいたい。
ぜひ運動会を見に来て下さい。
(日時)九月十九日(日)雨天の じいちゃん
場合、二十日(月)にか変更)

おじいちゃん、おばあちゃんへ
今年(今年)は九月十九日(日)に運動会が
あります。お年寄り用のテントも
あるので、いつもこない、おじいちゃんも、
ぜひ来て下さい。
今年のスローガンは「運動会 勝っても
負けても楽しもうです」
わたしは有組の3番です。

<授業を終えて>

成果と課題

子どもたちが、いつもより丁寧に書いている姿が多く見られ、読み手を意識するということの大切さを実感した子が多かった。また、いつもは横書きで書くことが多い子どもたちも今回は、ほとんどの子が縦書きで書いていた。お年寄りに読みやすいように、自分たちが判断した結果であろう。

「文字の中心」という書写の基礎力という視点で、実際に作成した招待状を見ても、きれいに中心が通っているものが多かった。児童の感想にも、思ったよりうまく書けたと満足していたものが多かった。目的がはっきりしていて、学習のポイントを個別的に支援できたことがよかったのであろう。また、いつもの書写の授業と違い、相手に届けるという意識をはっきり持ったことが、意欲を高めることにつながったともいえる。ただ単に読みやすく書くだけではなく、なぜ、読みやすく書く必要があるのかを理解するために話し合いをしたことが、自然と文字の中心をそろえて書くことにつながっていったものと思われる。

このような力をさらにつけるためには、十分に、学習のポイントを系統化し計画的に進めることが必要である。まだまだ今回は不十分であり、単元構造についてさらに検討を加えなくてはならない。例えば、罫線の全くないものを書くこととしたが、これでは、目安がなく文字の中心を見つける前に、書き出し位置で迷ってしまい、抵抗が増した児童も少なくなかったであろう。硬筆の場合は、字数が多いので、行の中心、字間、行間などに注意を要する。書き出しの文字の大きさや位置について、児童の力に応じて負担を少なくする手立てを考えることはできなかつたか。考察する点はまだまだ多い。

書写の授業を単独のものとしてでなく、すべての教科を支える力として考えると、今回の実践のようなことを継続していく必要がある。書写の力は、いろんな場面で生きて働くものである。学習活動のみならず、人から人へ「伝える」という行為において、書写の力は最も重要な要素の一つとなる。実用的な形式のときに目的に応じた書き方ができることが望まれる。また、筆記具は、鉛筆が主であるが、サインペンや、ボールペンなどにも慣れることも大切である。場に応じた工夫が必要である。

総合的学習と国語科書写とのかかわりについて検討を加えてみたが、これまでも硬筆、毛筆の関連させた授業が多くの方によって工夫されている。それを生かしてどんどん日常化をはかっていくことが大事である。そのことが書写の力をさらに養い、一人ひとりの意欲の高まりへとつながっていくと考える。

<これからの実践に向けて>

子どもたちの意欲がさらに高まるような手立てについてこれからも、さまざまな工夫を

を加えていきたいと思っている。その一つの参考にさせていただきたい一つの実践を紹介する。石川郡の研究会における河内小学校の安田陽子先生の運動場に「天」という文字を書くという報告である。子ども達と先生の心温まる話し合いから、生まれた実践である。今までの「書写の授業は教室」という私の固定概念をはらいのけて、授業における大切なものは何かということを変更して教わった実践である。

第4学年、22名の学級。「天」の学習が終わりかけていた頃のこと。

T：中国で見たことがあるんだけど、お米の一粒に字をいっぱい書いてあったよ。虫眼鏡で見たんだけど、きちんとした文字に書いてあったよ。みんなも書けるかな。虫眼鏡片手に書くんだよ。

C：無理に決まっとるがいね。

T：そうか、小さいのは無理かな。じゃあ大きく書くのはどうかな。

C：新聞紙ぐらいなら書けるよ。

T：なあんだ、そんな小さいの。

C：じゃあ教室いっぱいの大きさでどうや。

T：もっともっと。

C：じゃあ、空に書くのでどう。

T：山に登って、みんなで上を向いて寝転んで手で書くのもいいね。

C：でも書いたの见えないから、やっぱりダメや。

C：じゃあ。運動場に書こう。

こうして「天」を棒切れで下書きした跡を石灰でなぞることとなったそうである。教室で筆で学習した「天」の基本を確認し、運動場を眺めて大きさも頭に入れて出発。

T：自分たちでやれるの。先生どこにおればいい？

C：教室で見とって。

ところが、先生が心配したとおり、下書きもままならず時間切れだったそうである。この後、次の週にもう一度チャンスを与えてほしいと子どもたちに迫られて、再挑戦することとなる。

次の週の子供達の子供達のチームワークは最高だった。①3階の教室から、位置や大きさを指示をする子 ②1階と3階を走り指示を伝令する子 ③1画目から4画目までの下書きをする子 ④石灰でなぞる子 他学年が窓から顔を出して見ている。みんなに見られて気分も上々。2画目の長さ、3画目のはじめの位置と左払いのカーブに苦心し、4画目の右払いもしっかり意識している。

子どもたちの感想には次のようなことが書かれていた。

- ・ちょっと上手にできたと思う。「天」という字がちゃんと「十時半」（始筆の角度）になったところがあった。
- ・「天」を書いて思ったことは、3画目は途中でいきなりこんなに（カーブがうまくいかなかったことを図示して）になりました。ぼくは変だと思います。
- ・ひらべったい「天」になりました。だけどこんな（丸を書いて）ひらべったいまるだからです。（運動場がひらべったい丸であるということ）
- ・犬の字を書いてわかったことはみんなラストチャンスになるとみんなチームワークが良くなることがわかった。

子ども達の生き生きとした表情が伝わってくる。子ども達は、この体験をずっと心に留めておくだらう。こうした体験の積み重ねが「生きる力」につながるということは日々の教育活動のなかでいつも感じていることである。人間性は、人と人とのつながりから育っていくのではないだろうか。書写の授業においてもこのような方法で人と人との関わりを育てることもできるのだということを教えていただいた。この感謝の気持ちを今後の書写をはじめとする授業実践につなげていきたいと心新たにしている。

生活に活かせる書写力の育成をめざして ～他領域との総合学習、チーム・ティーチング(T・T)の実践報告～

金沢大学教育学部附属中学校 磯野美佳

本稿の概要

金沢大学教育学部附属中学校は、近年「総合学習」に力をいれている。その中で、他教科教師とのチームティーチング（以下T・T）をとり入れることも多い。国語科においても他教科との総合学習に取り組んできた。

平成10年度国語科では、音声活動にとどまらず、「書くこと」も加えた言語活動全体に指導の重点を置いた。本稿は、その実践記録の一部である。

1. 単元名「思いを伝える表現力（作文力・書写力）を身につけよう」

2. 年間学習計画における本単元の位置付け

2-1 書写と国語科の他領域との関わり

本校における昨年度国語科の目標は「豊かな表現力の育成（総合的な学習との関わりの中で）」であった。

本校の学校行事に主張大会がある。例年主張大会を中心に音声活動の指導に力を入れている。昨年度は、音声活動だけでなく、「書くこと」も加えた言語活動全般に指導の重点を置いた。主張大会という実の場を視野に入れ、国語学習にその原稿作成、音声表現のポイントを指導するところに、総合的な単元としての特色を持たせた。

その導入として、光村出版『国語 1年』中の「体験をふり返って～思いを伝える～」という教材を用いた。

実際の活動としては、作文を書き、さらにその発表を行った。また「書写」の要素を盛り込み、それを1冊の文集作成を試みた。そこでは、カットとして美術科の授業で制作した作品を使用した。

本単元において「書写」では、1年間を通して培った書写力の総まとめとして、国語科で書き上げた主張大会の原稿をもとに文集作成の清書を試みた。

本稿では、清書時に行ったチームティーチングを中心に報告を行う。

2-2 「書写」に対する生徒達の思いと生徒達への願い

『書写指導 中学校編』『国語科書写の役割』*1には、次のように書かれている。

書写とは、文字を書くことである。文字と書くことの間係を考えると、書写には、文字の正しさ、読みやすさ、書きやすさ、速さ等が求められる。国語科教育における「書写」では、その技法や能力の向上を扱う。……

ところが、「文字を正しく、きれいに」書くことの間係や能力の向上を扱うことが、「書写」であると思つて授業にのぞむ生徒も多い。ワードプロセッサの普及の影響もあり、なぜ手で書く場合きれいにかかればいけないのか疑問や反感を持つたまま授業を受ける生徒もいる。一方、教師は書写教育の役割を理解していても、その技法指導中心になつてしまい、結果、書写教育の意義や必要性を説くことは難しいようである。

文字の伝達という役割を考えたとき、「書く」だけでは文字の役割は達成されない。読み手が「読む」ことで初めてその役割は達成される。そこで、国語科の領域である「書写」においては、国語科他領域と総合学習を行うことで、読み手の視点から「書く」ことの間係を考えるきっかけにしたいと考えた。加えて、書字する際に読み手の立場を考え、できるだけ読みやすく書こうとする態度をも身に付けてほしかつた。

生徒たちは、小学校において「文字を正しく整えて書く」ことを学習してきた。中学校においては「生活に活かせる書写力の育成」をはかれるような学習活動を行いたいとも考えた。

そこで、「人に伝えるための書写力の育成」を目標に1年間授業を進めてきた。

2-3 書写の1年間の歩み

前述のように「生活に活かせる書写力の育成」をはかるため、日常の書字環境に即した学習活動を多く取り入れたいと考えた。おそらく生徒たちにとっては、ノートを取る行為が手で文字を書くことの大半を占めるであろう。そこで1年間かけて、漢字仮名混じり文を整えて書くための学習を行った。

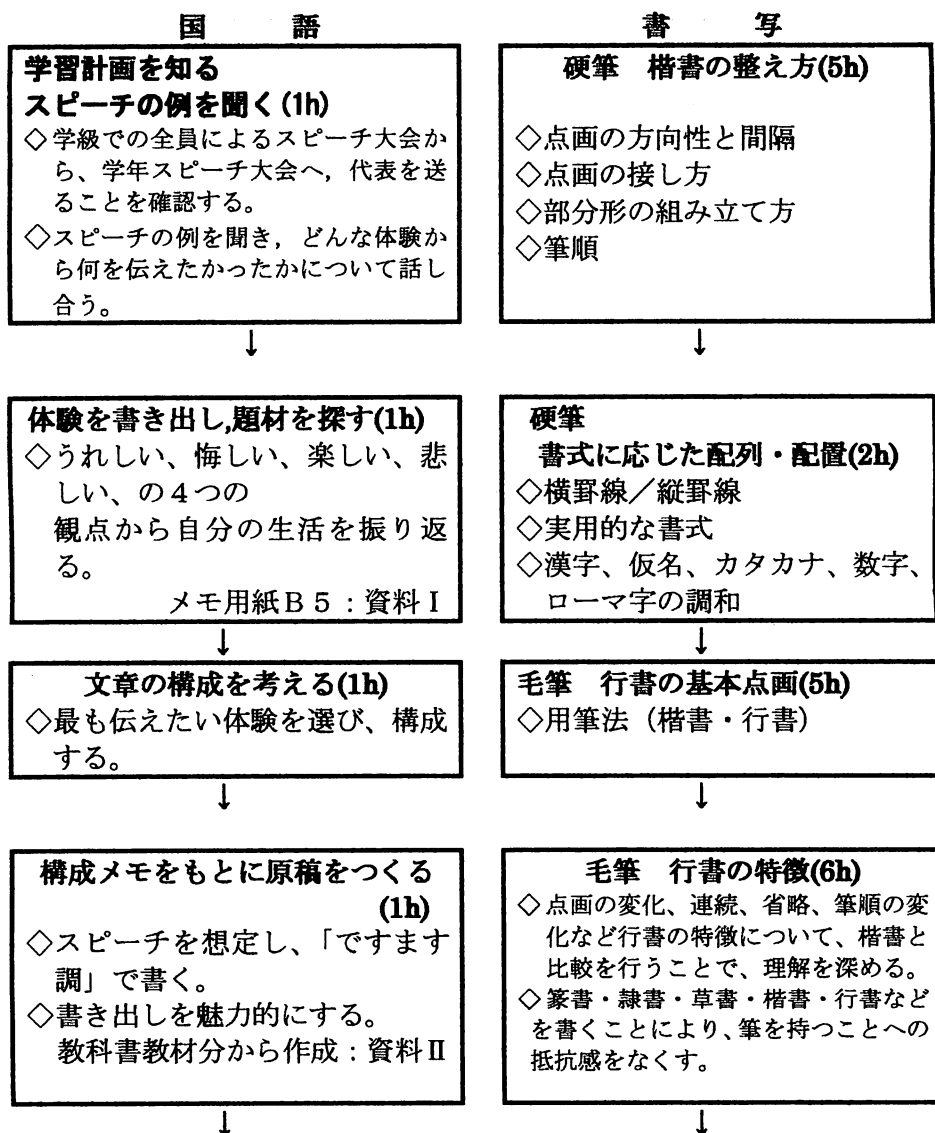
3. 本単元の意図

人に読んでもらうために文章をまとめたものが、「文集」である。文集という性格・目的に応じて、読みやすい文書（書写力・作文力）の作成ができる、知識および技能を身に付けさせたい。また、文集を作成するにあたり、コピー、印刷を行う。そこで、メディアに応じた文字の濃さ（筆圧や筆記用具）があることを気づかせることにより、それらに対応するため、用具・用材および筆圧などについて工夫する力を身に付けさせたいと考えた。

4. 単元目標

- ア、字形を整え、文字の大きさ、配列・配置に気を付けて書くこと。
- イ、漢字の楷書とそれに調和した仮名に注意して書くこと。
- ウ、人にも読みやすいように書こうと工夫する態度を身に付けること。

5. 学習指導計画と単元の重点



スピーチ原稿の見直し(1時間)
◇「ですます調」と常体との混用がないか。
◇文末が短調すぎないかに注意する。
「でした」「思いました」の繰り返しになっていないか。



発表練習(家庭学習)
◇スピーチを想定した音読練習
◇最終的な手直し
◇ゆっくり2回音読
(速度に関する学習はすでに済んでいる)



スピーチ大会(2h)
◇原稿を読んでいいが、姿勢や声の大きさ、速度に気をつける。
◇一言感想表を持って聞く。
◇学級代表2名を選出する。

毛筆 漢字と仮名の調和(5h)
◇文字の大きさと配置・配列
◇用紙(半紙・半紙1/4)に応じた文字の配置
◇行書に調和するひらがな



毛筆 マスへの配置・配列(2h)
◇文字の大きさと配置・配列
◇原稿用紙とマスへの配置の違い
余白に注目
◇印刷用活字と手書きの違い



硬筆 原稿用紙への清書(本時+1h+家庭学習)
◇文字の大きさと配置・配列
◇人に読んでもらうことを目的とした「読みやすさ」
◇印刷をするための文字の濃さ(筆圧・筆記用具)

文集作成

6. 学習展開

| 過程 | 学習内容と活動 | (T1) 教師の支援と留意点 (T2) |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 準備 | <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ原稿を配布する。 ・筆記用具を準備する。 ・清書用紙、原稿用紙、クリップを配布する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・Bの鉛筆を忘れた生徒がないか確認する。 |
| 目標把握 | <ul style="list-style-type: none"> ・文集作成することを確認し、人に読んでもらうために清書するにはどうしたらよいかを考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・原稿用紙を下敷にし、その上に清書用紙を重ねクリップでとめ清書することを伝える。 |
| 基準理解 | <ul style="list-style-type: none"> ・「原稿用紙に書く」と「白紙」に書くことのできあがの違い(文字の大きさと余白)はどうか。 →マスに対して大きくて大きめに ・印刷することを考えて文字の濃さを考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・原稿用紙には、あらかじめ行間をあげてあるので、マスいっぱい書いてもすっきり見える。 マスに対して小さく書くと、清書用紙(白紙)に対しては、余白が多すぎる。このことを前時の学習と資料により、気付かせる。 ・くっきり印刷できるようにするために、Bの鉛筆を使い、筆圧を普段よりかけるように指導する。 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ原稿の配布する。 ・原稿用紙に清書するのではなく、白紙の清書用紙に書くことを確認をする。 ・改めて推敲したところで、「常体」が混じっていないか。前後の文章とのつながりはどうか。 ・基本的な原稿用紙の使い方の確認をする。 |

| | | | |
|--------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p style="text-align: center;">清 書</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・題名、氏名も含め清書を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・文字の大きさ、濃さに目をむけるよう助言する。 ・生徒によっては、Bの鉛筆では柔らかすぎる者もいる逆に、Bでも硬い者もいる。また、鉛筆で縦書きしていくと書いた部分が右手で汚れてしまう者もいる。生徒に応じた鉛筆の濃さを選択するまた、ボールペンの使用を認めるなど、弾力的な対応をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「……」「・」等の特殊記号の効果と原稿用紙への収め方を助言する。 ・最初の調子で書き続けられているか確認し、援助する。 ・2枚目に移った生徒に清書用紙を配布する。 |
| <p style="text-align: center;">次 時 予 告</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・次の国語の時間に清書の続きを行うことを知る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・2枚目の清書用紙の隅に氏名を忘れずに書くことを、指示する。 ・スピーチ原稿、清書用紙、原稿用紙を集める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・貸し出した筆記用具を回収する。 ・次の国語の時間も同じ筆記用具を用い、丁寧に書くよう連絡をする。 |

7. T・T導入の授業実践の成果と課題

7-1 書写教育の視点から課題に取り組ませる際に留意した点

7-1-1 書写における1年のまとめとして留意した点

◇年間に学習する題材の相互関連をはかること

- ・硬筆と毛筆の関連
- ・硬筆〈鉛筆の硬さ、ボールペン〉の使い分け
- ・少字数から多字数への移行
- ・漢字、ひらがな、カタカナ、算用数字の調和
- ・書式による文字の配置、配列

7-1-2 書写と国語科他領域を関連付けること

◇「文集製作」という1つの目標を設定することにより、生徒の学習の意欲・関心を高めること

◇文集製作および主張大会を通じて、文章（文字）が持つ「書く・読む・話す・聞く」という4つの役割を再認識させ、それらの関係に気付かせること。

7-2 総合学習の成果と課題

「書写」と国語科他領域を関連付けた総合学習を行ったことにより、次の成果が得られた。

◇読み手の視点から「書く」ことの意義を考えるきっかけになり、「書写」への取り組む姿勢が前向きになったこと。

◇結果、授業以外の日常書写の文字を丁寧に書こうとする生徒も見うけられたこと。

課題としては、

◇実施時期が学年末ということもあり、授業で学んだことを反復学習する時間がほとんどとれなかったこと。

◇結果日常書写に応用する機会が少なくなってしまったこと。

といった、授業後の問題があげられる。しかし、この時期だから1年間の授業の積み上げがあり、スムーズに授業が行えたともいえる。

7-3 T・T導入に対して留意した点

◇互いの専門性を活かせるよう、教師の役割分担を明確にすること

◇それぞれ前時までの授業について情報交換をし、本時に結びつけるための手立てを準備すること

7-4 T・T導入授業実践の成果

授業に2人の教師が、指導あるいは支援者として関わった。1人は作文教育に理解が深く、もう1人は、書写教育の理解がある。互いの専門分野

が明確であったため、指導の役割分担も明らかであった。それは、指導者同士の授業のやりやすさにもつながった。また、興味はあっても苦手な指導分野から逃げ腰になりがちな指導者にとって、多くのことを吸収できる機会といえる。

一方、生徒にとっても質問をしやすく、的確な支援をできたように思う。特に本時のような個別学習主体となると、様々な多くの質問が出たようである。従来の授業形態ならば繁雑になりがちな部分も、1人ひとりに対応した細かな指導が行えた。このような点からも、T・Tが効果的に機能したと考えられる。

7-4 T・T導入の授業実践の課題

T・Tを導入した授業実践では、生徒1人ひとりの要求・質問に対応しやすくなり、細やかな指導ができる。しかし、次の点について今後検討する必要がある。

◇教師の役割分担を明確にすること

教師の指導領域の役割分担は、本実践ではできていたように思う。より1人ひとりに対応していくためには、通常授業時における生徒の様子・実態といった情報を、事前に教師間で交換する必要性を実感した。

◇弾力的に指導する幅を確認すること

筆記用具については、生徒の筆圧や願いに合わせて、Bの鉛筆にこだわらず、場合によってはボールペンを使用させるなど、弾力的な指導をした。また、本時までには指導していない特殊記号も表現効果を高めるた

めに使用したい生徒には、それらの原稿用紙の収め方を指導した。役割分担を明確にしてあったため、授業の最初のうちは、生徒からのそのような声に対して、もう一方の教師に聞くように指示したり、独自で判断した後に確認をとるなどした。生徒に2度手間をかけてしまった感は否めない。このように、指導領域の役割分担を行うことと合わせて、何をどこまで指導し、個に対応するために弾力的に指導する幅を確認する必要がある。

◇教材研究の時間を確保すること

十分な教材研究や生徒の実態把握をしていて、効果的なT・Tが行われる。

しかし、多くの学校行事等があり、事前打ち合わせや資料作りなどの時間を確保することは、難しい。

◇成果を効果的に日常の学習に応用させること

T・T導入後、書写はもちろん国語や他教科での「書く」活動に活かすように生徒を促すことが、効果を高めるであろう。この点については年間指導計画から検討していきたい。

◇パートナーの人選や相性を考慮すること

年齢差・性差・得意分野・領域等によって、指導の進め方も変わってしまうだろう。また、教師の相性も、敏感な年頃の生徒達に影響を少なからず影響を与えることが、予想される。

8. まとめ

今1度、本実践を見直し、総合学習およびT・T今後の在り方や可能性を考えてみる。それぞれの有効性がみえてくる。一方、問題点や課題も大きい。それらについては先に挙げた通りである。そうした問題点があっても、生徒、教師にとって得ることが多い。今後も実践がつながり、広がることを期待したい。

* 1 『書写指導 中学校編』全国大学書写教育学会編/萱原書房/1993. 4

資料Ⅴ

資料Ⅰ

夕木 さかし...心に残ったこと

| | |
|------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| <p>シムエントで 声優をしたこと。</p> | <p>ブラスバンド部でフルートになったこと。</p> |
| | |
| <p>台風の時におどろかしたこと。</p> <p>ラストの点で悪いこと。</p> | <p>文化祭のシムエントで 声優をしたこと。</p> <p>よく楽器の音が聴こえたこと。</p> |

1年 組 番 氏名

表現 体験をふり返ってー思いを述べる

書き出しの工夫いろいろ

A もしもあのとまき苦しくてあきらめていたら、こんな満足感はずいぶん味わえなかったことでしょうか、今は、本当にがんばってよかったと思っています。

B 十月五日、父といつものように鶴見川の土手を走ろうとしていたときのことです。

C 「今日から、休みなしで五キロ走ってみよう。最後までがんばるんだよ。」
父がこう言ったのです。

D もうだめだ、マラソン大会なんて絶対だめだ……、足に力が入らなくなり、息も苦しくなってきました。

E みなさんは五キロを一気に走ったことがありますか。

F 苦しいけどあきらめずにがんばってよかった……、みなさんは、そんな満足感を味わったことがありますか。

右の例を参考にあなたの作文の書き出しを考えましょう。

体験

思いを述べよう

(1) 経緯

(2) 時

(3) 思い

(4) 反省

勉強

組

昨年の四月。私はこの附属中学校に入学しました。そして、この中学校に入学したことで、小学生の頃とは一味ちがった体験をすることができたのです。

その切っ掛けとなったのが、毎日の通学方法です。小学校へは、近かったのですが、もちろん歩いて通っていました。中学生になったと同時に、電車とバスで通学するなんて思ってもいなかっただことです。毎日片道一時間かけての通学は、とても長いように思われます。しかし実際、電車やバスの中で勉強できるくらい、長いものではありません。まえに何度か挑戦してみたことはあったのですが、なかなか集中できず、結局いつもボーッと外を眺めて、時間をつぶしていました。

そんなある時、私は一つのおもいがない体験をしました。その体験が、私になにも学

手習いから書の道へ

石川県立松任高等学校 教諭 田中 学

1. はじめに

本校は、全日制普通高校であり、芸術科目については、3科目（音楽、美術、書道）の講座が開かれている。しかも、各科目担当者が専任教諭として赴任している。生徒には入学時に芸術科目の受講希望調査を行なっているが、教室の広さ等の問題もあって必ずしも全員が第1志望通りの科目を受講してできるとは限らない。その結果、自分の第1希望ではない科目を受講する生徒が存在することになる（もちろん、書道を自ら望んだ生徒も存在する）。こうした生徒の実状を知る上で、書道のイメージをよりよいものにしていきたい。そう思って、以下のアンケートを平成10年度新入生の書道受講者に実施した。

2. アンケート

質問1『中学校の書写の授業について、ア～エで教えてください』

1) 中学1年のとき 2) 中学2年のとき 3) 中学3年のとき

ア. 週1時間あった イ. 月に1、2度あった

ウ. 年1、2度（書き初め） エ. 全くなかった

質問2『質問：書道を選択した理由を以下の中から1～2つ選んでください』

選択項目

「3教科の中で一番好きだから」

「3教科の中で一番楽そうだから」

「他の2教科（音楽、美術）が苦手で嫌だったから」

「字を書くことが苦手で少しでも上達したかったから」

「書写（習字）の経験もあり、少し自信があったから」

「書道というものを一度はしてみたかったから」

「字が上手にならなくてもいいから、精神力・集中力をつけたかったから」

「先輩に相談したらすすめられた」

「両親が『書道は将来役に立つから』と言ったから」

「迷った結果、友人にすすめられたから」

「マンガ字（まる字）をなおそうと決意したから」

結果（回答数108人）

質問1

回答の多くが、1) では「ア」、2) および3) については「ウ」であった。なかには、同じ中学校出身者であっても回答が違う場合があった。これは生徒の記憶が薄れてしまったのか、あるいは担当教諭の方針の違いのどちらかだと思われるが、明らかにすることはできなかった。

質問2

回答の順位は以下の通り。

- 1位「字を書くことが苦手で少しでも上達したかったから」(45票)
- 2位「他の2教科(音楽、美術)が苦手で嫌だったから」(25票)
- 3位「3教科の中で一番好きだから」(22票)
- 4位「両親が『書道は将来役に立つから』と言ったから」(21票)
- 5位「書写(習字)の経験もあり、少し自信があったから」(18票)

以下、

- 「3教科の中で一番楽そうだから」(17票)
- 「字が上手にならなくてもいいから、精神力・集中力をつけたかったから」(9票)
- 「書道というものを一度はしてみたかったから」(7票)
- 「迷った結果、友人にすすめられたから」(7票)
- 「マンガ字(まる字)をなおそうと決意したから」(5票)
- 「先輩に相談したらすすめられた」(2票)

このような結果となった。多数の生徒が「少しでも上達したかった」からと書道に対して積極的に取り組もうとする回答をしている。近年、情報化が盛んに叫ばれ、電子メールやワープロが普及して、文字の活字化が急速に進む傾向にあっても、文字を美しく書きたいという気持ちは根強いと思われる。

一方、2位に「他の2教科(音楽、美術)が苦手で嫌だったから」という書道に対して、あまり積極的とはいえない回答が挙がっている。質問1の結果からも分かるように中学では「書写(書き方)」より「音楽」「美術」の授業の回数が多い。そして、それらの科目であまり成績が振るわなかったのであれば、評価が未知である「書道」を選択することも十分考えられる(この彼らが高校2年になって、戸惑ったのが篆刻である。大多数の生徒は篆刻という分野が「書道」にあることを知らない。彫刻といったことを避けるために書道を選択したのに、中学のときに「美術」でした「ハンコ作り」をする羽目になったからである。彫る書体は違っても作業の内容は同じなので、篆刻の動機づけが難しかった)。

中学では「書写」は国語科の一環――つまり基礎的な「読み」と「書き」の一部分――として設定されている。高校での「書道」についても「字を書くことが苦手で少しでも上達したかったから」あるいは「両親が『書道は将来役に立つから』と言ったから」といっ

た回答からうかがえるように、「書道」は「書写」の延長と思われている。

しかし「書道」は「芸術科目」として位置付けられていることを確認しておきたい。そして、他の2科目と異なり「書」は日本（東洋）独自の芸術である（実際、本校には2年に1度海外から交流団が一日体験入学しに訪れる。そのとき必ず「書道」を受講していき、大変喜ばれる。資料1参照）。国際化と言われて久しい今日、私たちがこの分野を見つめていく必要がある。

3. 「書」の実践

最近、相田みつおや片岡鶴太郎、326（ナカムラミツル）の作品が話題となって「書」も注目されるようになってきた。これらの作品を見ると、生徒も「自分もあいつの作品を書いてみたい」と思うようである。「書道」が「芸術科」として位置付けられているからには、こちらにも生徒に「作品」を書いてほしいと願うは当然といえよう。そんなとき、平成9年に開催された第22回全日本高等学校書道教育研究会に参加し、そのなかの「漢字仮名交じりの文を書く～用具の工夫が書の世界を変える～」(若狭学園高等学校)を参観した。この公開授業の「用具の工夫」というのは、木や枝から筆を作り、それで字を書くということであった。

これを参考に「秋の公園を散策して、落葉や枝を拾って、それで字を書こう」という授業を行なった（幸いなことに本校の隣には公園があり、1時限の間に散策して学校に戻ることでできる環境にある）。この時間での生徒への提示は「落葉、枝を拾うこと」「学校に戻ったら、秋の公園散策をして思ったことを書くこと」の2点のみ。

今までの「書道の時間は筆で字を書く」という思い込みがあるため、必ず生徒は驚く（「書道Ⅱ」の終了時に「印象に残ったこと」といったアンケートを行なったところ「外に出て草木で字を書いたこと」という回答が多かった）。そして、枝や草を使いにくそうにしながらも、思い思いの言葉を書いていた（作品1～4参照）。この過程は「自己の感性を豊かに働かせて、創造的に表現に取り組む意欲・態度・能力を育てる」といえよう。

4. 課題

自分の思いを表現するのは良かったが、その評価については困難をきわめる。ここで私が行なっている評価の基準は、①「散らし」が効果的に使われているか ②書かれた言葉と描かれた線の一致性 の2点。この基準についても、これから考慮の余地があるだろうし、「自由な言葉」もしくは「課題文」のどちらを書くのが良いのか、といった問題もある。また、本時の授業と前後の授業との関連をしっかりと結びつけ、生徒に目的を認識させないと単なる「手遊び」に陥ってしまう可能性が高いことにも注意したい。

寒くなつて

秋葉を

あかり

色何処

秋の

あかり

の

あかり

あかり

外は

ま

風

15
11
27
地崎
暁子

明日も

晴れ

ますように。

☆
17
H
川端祥子



英語の授業は先生役

オーストラリア・ペンリス市の男女生徒ら

松任高校に体験入学



書道に挑戦するタニエル・ウインチさん(松任高校)

オーストラリア・ペンリス市から松任市を訪れているホームステイ交流団の高校生が十日、県立松任高校に体験入学して、日本の高校生らと一緒に書道や体育、英語、音楽の授業を受けた。

書道にも挑戦

交流団は、ペンリスハイスクールの男子生徒三人と女子生徒四人に引率教師二人、随行二人の計十一人。二日に松任市を訪れ、市内でホームステイしている。松任高校を訪れた二行は歓迎会の後、二年生のクラスに分散して体験授業をした。書道の授業に参加したのはタニエル・ウインチさんで「花」の漢字に挑戦した。最初のうちは隣の女子

高校生に手を添えてもらって書いていたが、しばらくすると自ら筆を器用に動かせるまでに上達。楷(か)書のほか行書にもチャレンジしていた。英語の授業には全員が参加。生徒としてではなく、先生役となって本場のイングリッシュを披露した。交流団は、十一日に松任農業高校の体験授業にも参加した後、市民会館で開かれる「さよならパーティー」で日程を終了する。

小学校教員養成における書写授業より

—小学校教員免許用科目「国語基礎（書写を含む）」—

上越教育大学 押木秀樹

1 はじめに

石川県書写書道教育連盟は、平成元年度の発足以来、「授業研究を中心として、県内の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学・障害児学校等の一貫した書写書道教育と書道文化のさらなる充実発展に努め」という目的どおり、各校種における研究授業および研究活動をおこなってきた。しかし、書写書道教育の基盤ともいべき教員養成の段階、すなわち大学の授業研究に関しては、第9回大会まで研究・公開授業をおこなっていない。一方、全国的に見た場合、教員養成のための授業研究はある程度おこなわれている。¹

このような状況を踏まえ、本稿は紙上にて石川県内の教員養成学部における書写指導の一部を公開することにより、授業研究の対象とすることを意図している。以下、授業の概略を説明するとともに、その内容の一部をほぼそのまま文字としたものを紹介する。なお、今回は授業者自身による考察を特におこなうことなく、素材として提出する。

2 授業の概略について

2-1 授業の位置づけ

本稿において紹介する授業は、筆者が平成3年から平成10年の間に、金沢大学教育学部にて担当した授業の一つである。平成9年度段階において金沢大学教育学部での書写書道に関する科目は17科目、そのうち13科目を筆者が担当し、4科目を非常勤講師が担当していた。これらのうち、学部生対象の授業として、小学校免許用の科目が1科目、中学校国語科免許を意図して開講していた科目が3科目、高等学校芸術科書道を視野に入れて開講していた科目が9科目である。本稿において、記録を公開する授業は、小学校免許用科目として開講されていた「国語基礎（書写を含む）」である。

「国語基礎（書写を含む）」は、小学校教員養成課程および小学校教員免許を希望する学生（当時）を対象とした2単位の授業であり、受講者はおおよそ150名を越えるものであった。平成元年教育職員免許法では、小学校教員免許状を取得するためには、「国語（書写を含む）」が必修となっており、これに該当する授業である。

2-2 授業の目的

授業の目的・趣旨としては、上記のとおり、小学校教員として書写指導に必要な能力を養うものである。授業目的について、学生には次のように提示していた。「書写能力に自信がないと、義務教育での書写指導が十分に行われない危険性がある。このため、ある程度の書写技能が必要となる。一方、書写の授業は、教師の書写能力があるほどよい授業ができるとは限らない。この授

業は、書写技能に加え知識と理解で義務教育段階の書写指導に資することを目的としている。」このように、技能偏重にならないよう、指導方法等の理解もその目的としている。

2-3 授業形態と概略

先に述べた教育職員免許法における「国語（書写を含む）」の取り扱いについて、大学によっては、書写部分を別単位として取り扱う、また 200 名近い受講者をいくつかのクラスにわけて実施するなどの対応が見られた²。しかし金沢大学においては、筆者の力不足もあり、全 15 回（1 回あたり 90 分）の授業のうち 5 回を書写として、150 名をこえる受講者が大教室（階段教室）にて一斉に受講する形にせざるを得ず、そのため毛筆実技をおこなうことができなかった。毛筆実技については、「免許の取得のみではなく小学校教員としての就職を考えている学生で、毛筆実技に自信がない場合は、書道演習 A の履修を推奨する」という指示をおこなうことで対応した。

授業の概略は、次のとおりである。

<授業の概略>

1. はじめに
2. 小学校教師としての基礎知識（1）-教師として-
 - 2-1 書写の基礎知識-書写・書道・習字・書き方-
 - 2-2 文字の基礎知識-文字・字形・字体・書体-
3. 小学校教師としての基礎知識（2）-子どもたちのために-
 - 3-1 何を書写で学んだか？（問題提起）-「初日の出」がうまい子を育てる？-
 - 3-2 書写の学習内容とは？
 - 3-3 子どもたちの文字からスタートする書写-「手本を学ぶ」から「手本で学ぶ」へ-
4. 書写の学習内容の例として-字形は何を学習する？-
 - 4-1 単体の字-長さ・間隔・角度・直曲・接し方ほか-
 - 4-2 部分形からなる字-扁と旁のバランス-

具体的には、「1.はじめに」において授業全体に渡る問題提起とアンケート調査をおこない、これを元に学生らに自分自身の知識と書写技能を確認させることから始めた。この結果を踏まえ、どのような指導力が必要かを押さえた上で、以下の授業を展開した。2では、未だに「書写」という名称が定着せず、「習字」「書き方」といった名称と硬筆・毛筆などの用具のことが混用されている現実、また「字形」と「字体」の区別ができないことなどを指摘し、その基礎知識について指導した。同時に、簡単な書写教育史や学年別漢字配当表・教科書体などの知識についても説明している。なお、この部分は本稿においては省略する。なお、後述の4とあわせ、省略部分については、インターネットの Web <http://www.shosha.kokugo.juen.ac.jp/oshiki/jyugyo/shoshakiso/> にて公開しており、そちらのご参照をお願いしたい。

続く、「3. 小学校教師としての基礎知識（2）-子どもたちのために-」が、本稿において、授業録を公開する部分である。書写の学習内容から授業展開などを取り扱う。最初に、学生らが興味を持つよう、意図的な問題提起をおこなった後、その解決方法を考えさせつつ、こちらから考

え方を徐々に述べていくという方法を取った。書写の実際の授業ビデオを見る活動などをのぞき、次章以下に示した。

最後の「4. 書写の学習内容の例として-字形は何を学習する?-」では、前章を受け学習内容としての字形を例に扱った。学生ら自身が、硬筆にて指定した文字を試書し、その問題点を実際に考え、字形の学習内容について学習した。

なお授業には、全国大学書写書道教育学会編『書写指導 小学校編』／萱原書房をテキストとして用いた。また限られた時間の授業であり、不足分についてはテキストで確認しておくことを指示した。同様の理由で、まったくの誤りといえないものの、簡略化して説明しているために厳密な意味では正しいといえないこともある。

それでは、以下末尾まで授業記録を掲載する。枠で囲んで示す部分は、板書である。

3 何を書写で学んだか？(問題提起:「初日の出」がうまい子を育てるのか?)

それでは、今回から書写の授業をどのようにおこなうかという問題に入っていくことにします。ここでは、学校教育における書写の授業でどのような力をつけるのかという点について、書写の学習内容と授業の展開から考えてみたいと思います。

具体的な話に入る前に問題提起をしておくことにします。

3-1 問題提起1 (書写で何を覚えているか?)

最初に気になるのは、次のような点です。アンケートでも良いですし、このような授業の質問でも良いですが、書写の授業で学習したこと、覚えていることをあげて下さいという質問をします。どんな答えが返ってくるでしょう？ 皆さんなら何と答えますか？ 学習したことが思い出せないとしたら、書写の授業で覚えていることでも良いです。

さあ、書写の授業で学習したこと、何か思い出せたでしょうか？ これまで、この質問で多く出てきた内容は次のようなものです。

- 練習帳をやった。
- コンクールに出した。
- 書き初めをした。
- 中学校では、冬休みの直前に少しやっただけ。
- 先生が赤い墨で直してくれた。(赤い墨は朱墨といいます)
- 先生が水をつけて書くと黒くなる板に字を書いた。(水書板といいます。)
- 服が汚れた。
- 後ろに張り出されて嫌だった。

皆さんもこのようなことを思いついたでしょうか。余談ですが、「後ろに張り出されてうれしかった。」という回答よりも、「嫌だった」という回答が目立つのは、あまりにも悲しいです。

それよりもっと気になるのは次のような点です。たとえば同じ質問を算数でしたらどう回答が返ってくるでしょうか？ 算数の授業で学習したこと、覚えていることをあげて下さい。私が小学校の算数で覚えているのは、最初に算数セットのような物をもらった(買った)ことです。

おはじきみたいな物や定規、それから時計のおもちゃのような物が入っていてうれしかったのを覚えています。もちろん、それを使って数の数え方の学習をした事が思い出されます。さらに、足し算の勉強、その文章題、引き算・かけ算・わり算・分数・小数などもやったはずです。そして、それらの学習内容は今日常生活で見事に役立っているといえるでしょう。では、書写の学習内容がどのように役立っているといえるのでしょうか？

もちろん、書き初めという行為は、私たち

にとって大事な文化かも知れません。しかし貴重な学校教育の時間の中で果たしてそのためだけに書写をやっている良いのでしょうか？

書写ではどのようなことを学習すればよいのか、ということがまず問題提起の第一点目です。

3-2 問題提起2（「初日の出」がうまい子を育てているのか？）

次に、テレビを見ていて思うことがあります。たとえば、お正月番組などを見ていると、アイドルとかタレントといった人が、和服を着て筆で字を書くところをたまに見ることがあります。たいていそのアイドルは書道何段とか紹介されます。しかし、私はこれまで残念なことに、本当に上手だなと思ったことはほとんどありません。いつだったか、司会者が正直(?)に「へただねえ」って本人に向かっていっていました。で、本人はというと、緊張したからとか久しぶりだからと答えています。もちろん、小学校の時に書道何段であっても、大人の目で見たらそれほどでもないこともありましようし、また久しぶりに筆を持って調子が出ないということもありましよう。ただし、それだけではないように思えるのです。

彼らは、おそらくお手本をもらってそれを元に練習したでしょう。ですから、手本が横にあればまねをして上手に書けるはずが、テレビ番組ではお手本なしですから、どう書いたら良いかわからないという問題もあるかも知れません。きっと、小学校の頃に習ったことのある文字、たとえば「初日の出」という言葉を書いたことがあれば、その字はうまく書けるのかも知れませんね。

しかし、私たちは学校教育の中で、「初日の出」、という言葉が上手に書ける子供を育てているのでしょうか？ それとももっと別の力を持った子供を育てようとしているのでしょうか？ 後者だとすればいったいそれはどういう力でしょうか。これが二点目です。

書写

- ・朱墨で直された
- ・水書板を覚えている
- ・服が汚れた

↓↑

算数

- ・数え方・足し算・引き算・・・

|

? あまりに違いすぎないか。

◎ とすれば、書写は何を学習しているのか！

◎私たちは、「初日の出」が
うまい子供を育てているのか?!

3-3 問題提起3（小学校で習ったはずのことも身に付いていない？）

大学で書写書道を担当していて、時々「字が上手になりたい」と学生から言われます。一つは教育実習の前です。黒板の字がどうもうまく書けないのでうまくなりたいということです。また

教育実習が終わると、お礼状を書く際に、縦書きの手紙がうまく書けないので教えてほしいという場合もあります。それから就職の時期です。履歴書等の字を書いている、もっとうまく書かなければという気持ちになるようです。

また、この授業の最初にお話しした高校生の例も、就職の時期になっていよいよ困って、某社の通信教育を受けようとしていました。もちろん通信教育で学習しても良いでしょう。しかし、学校教育の書写はどうなっているのでしょうか?! たとえば最初に示した図をもう一度見てもらいましょう。

たとえばこれは高校生に指導した例ですが、どこかで見覚えはないでしょうか? ひらがなについては小学校一年生の学習内容です。漢字の方は小学校三年生以降の学習内容です。高校生になって、小学校一年生や三年生の学習内容を覚えていないというのが実態なのです。他にそんな教科、分野があるでしょうか?

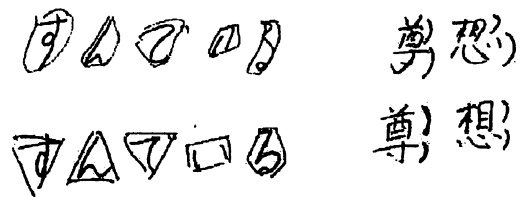
そして、このように書けるかどうかは別として、このくらいの知識を覚えたり、自分自身の字と見比べるなどは、とても容易なことだろうと思われまます。仮に、小学校の時に上手に書けなかったとしても、こういった知識を覚えておくことで、高校生くらいになってもう一度練習し直したって良いはずですよ。なぜそれがおこなわれていないのでしょうか。

卒業生の進路の多くが就職だというような高校では、国語の授業の中でいわゆるペン習字をしているところがあります。しかし、高等学校の学習指導要領には、国語科の中に書写の項目はありません。にもかかわらず、書写(硬筆)の内容とほとんど変わらない学習をしているのです。もちろん、中学校の学習指導要領には、国語科に書写があります。しかし、十分な指導がおこなわれているとって良いのでしょうか? 少なくとも、社会人になるときに学力不足にならないだけの書写指導をしなければなりませんし、中学校段階で時間が足りないのならそのための工夫も必要だと思うのです。

3-4 問題提起4 (日本人は、ほとんど字が下手なのか?)

最後に一つ付け加えて問題提起しておきます。

皆さん自身は自分で、字が上手だと思いますか、普通だと思いますか、それとも、得意ではない方だと思いますか? 実際に聞いてみると、字が上手だと思う人は非常に少ないです。得意ではないと答える人が圧倒的に多いというのが実態です。たとえば私などが見て、かなり上手に見



◎小学校一年生で習ったことが、高校生になっても身についていないというのは、どういうこと?!



仮に小学生の時、思った通りに書けなくても、高校生になってその知識を生かせれば!

◎社会人になるときに必要性に気付いたとして、その時に生かせる学習内容でありたい!



それが「生きる力」ではないのか!!

えても、自分では上手ではないと答えたりします。それはなぜでしょうか。もちろん謙遜しているということもあるでしょう。しかし、それだけではないように思うのです。

かなり上手に見えるにも関わらず、自分ではそう思っていない人に聞いてみると、自分の字は「お手本みたいな字」でないからという答えが返ってきたりします。しかし、よく考えてみるとお手本の字というのは、たいていの場合日本で有数の字の上手な人が、お手

- ・お手本のような字が書けることが目標？
- ・普通の人が、そんなに上手に書ける必要があるだろうか？

↓

自分自身の字を大事にして、
良くないところを直すくらいでも
十分ではないだろうか！

(少なくとも学校教育の場合)

本として印刷するためにかなり時間をかけて全身全霊を傾けて書いている、と考えて良いはずで
す。とすれば、普段私たちが字を書くのに、そんなにすごい字が書けっこないというのが本当の
ところではないでしょうか。にもかかわらず、お手本のような字が書けなくてはいけないのだと
いう思いこみが、あきらめを生んでいるということもあるのではないのでしょうか。

もちろん人によっては、いわゆるお手本レベルの字が書けることを目標にしても良いでしょう
し、あこがれは学習意欲につながるはずで
す。しかし、多くの普通の子どもたちを対象とする学
校教育において、お手本みたいな字が書けると
いうのが到達すべき目標だとすれば、それは酷
なことのよう
に思えるのです。劣等感を持ってしまい、向上を妨げるくらいなら、もっと別の考
え方を取るべきではない
のでしょうか。そう、自分自身の字を大事にして、良くないところを少し直
そうといった気持ちで取り組んだらどう
でしょうか。

それでは、以上の問題を踏まえて、どのような内容を、どのように指導して
いくべきなのか考
えてみたいと思います。

4 カリキュラムの構造と内容

4-1 書写の学習内容（何を学習・指導すべきなのか？）

さて、最初の算数との比較で、書写の学習内容が思い浮かばないということについてお話し
しました。本当に書写には、思いつくような学習内容がないのでしょうか。いえ、もちろんあります。
学習指導要領を参考に、極めておおざっぱにまとめると次のようになります。

このように書き出してみると、思い当たる節もあるのではないのでしょうか。たとえば、書写の
教科書の表紙を開いたところには、たいていの教科書に机にきちんと座った小学生の写
真が載っ
ていますし、正しい持ち方なども載っているはずで
す。これも書写の学習内容だったの
ですね。もちろん、筆順などは新出漢字の学習の際などに扱われることも多いわけ
ですが、書写の学習内
容でもあるわけ
です。3の用筆という
ところを見ると、毛筆の話かと思
うでしょうが、この場合は硬筆も毛筆も両
方含むと考
えるべきで
す。

◎書写の学習内容（概略）

- | | | |
|-------|---------|-----------|
| 1. 姿勢 | 2. 持ち方 | 3. 用筆（点画） |
| 4. 筆順 | 5. 字形 | 6. 配列・書式 |
| 7. 評価 | (8. 速さ) | |

5の字形はイメージしやすいと思います。6の配列・書式は、紙や罫線に応じた文字の大きさと字間・行間の問題に加え、観察記録ですとか手紙などの書式に応じた書き方の学習も含まれると考えます。7の評価というのは、自分自身の字が他人にとって読みやすいかそうではないかといった判断力の育成も必要だということでしょう。なお、8の速さという要素は、中学校の学習内容になります。この速さという要素については、「書写書道2」の中で行書の学習をしますが、そのときにあらためて考えます。なお「書写書道2」の授業を受講するつもりはないが、是非知りたいという人はインターネットの「行書の意味と科学的解釈」(<http://www.shosha.kokugo.juen.ac.jp/oshiki/graphono/Gyosho&Gendai/gyosho97.html>)を読んでみて下さい。また、書写の目標と内容については、テキストの11ページを参照しておきましょう。

4-2 カリキュラムの構造（書写の学習内容がイメージできないのはなぜ？）

このような学習内容があるにもかかわらず、先にお話したように、その学習内容をはっきりイメージできていません。その理由はどこにあるのでしょうか。このようなことが想像されま

す。手本を中心においた指導という点は、後ほどお話しします。まず、カリキュラムの構造をというのでしょうか。

算数の場合は、数の数え方をしっかり身につけた上で、初めて足し算の勉強に進み、足し算が理解できたことを前提として引き算に進みます。このように階段を一段一段しっかり踏みしめ

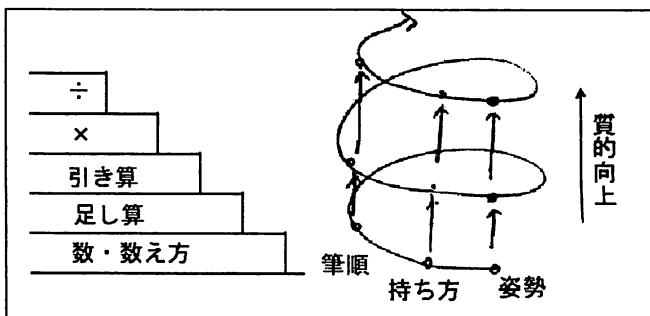
ながら上っていくカリキュラムと言えるのではないのでしょうか。もし、算数科教育学などを専攻する人、違っていたら是非指摘して下さい。一方、書写の場合は、螺旋構造のカリキュラムと考えられます。

すなわち、「とりあえず筆記具を持って」「習った筆順に従ってある字を書く」ということは、いきなりできるはずです。しかし、それを繰り返し繰り返し学習することで、より望ましい持ち方を身につけ、汎用の筆順を理解し、整った字を書けるようにする。それが書写の学習、質的な向上といえると思うのです。これは、できる↔できない、ということと違い、質的な向上ですからなかなか把握しづらいですし、一度教えたならそれで良いと思ってしまいがちなのではないかと思います。このような構造をしていることを是非理解しておいてもらいたいと思うのです。

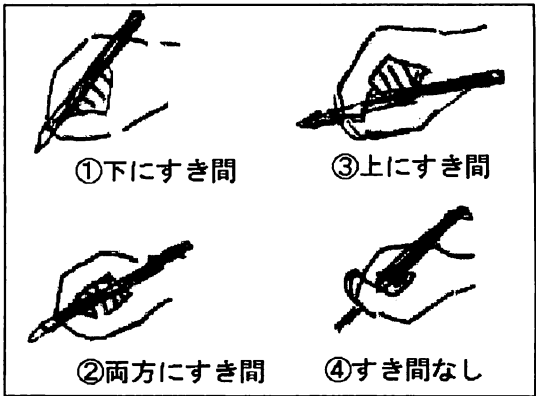
たとえば、図の持ち方であれば、いわゆる正しい持ち方、すなわちこの図の①の持ち方ができる子供、いえ大人も少なくなっているといわれます。一度持ち方を教え、違っている場合に注意

○書写の学習内容がイメージできないのはなぜ？

- ・しっかり指導してもらえなかった。
※コンクールの作品などの指導中心だったとか。
- ・指導してもらったが忘れた。
- ・カリキュラムの構造上の問題
- ・手本を中心においた指導



ただけでは、どうしても直らなかつたりします。その意味でも、繰り返し学習することが必要なわけですね。なお、持ち方に関しては、テキスト 14 ページに載っていますので、気になる人はそこを参照してみてください。さらに、なぜ①の持ち方が正しいのかといったことについては、「書写基礎研究」の授業もしくはインターネット「筆記具の持ち方と姿勢」（<http://www.shosha.kokugo.juen.ac.jp/oshiki/graphono/mochikata/mochi.htm>）を参照してみてください。



もう一つ、例をあげさせて下さい。皆さんは、どのように筆順を学習したでしょうか？ おそらく最初のうちは、新出漢字の学習ごとに、場合によっては先生が手をあげて書いてくれるのにあわせ、皆さんも手を大きく上にあげて書いて覚えたのではないのでしょうか。その後は、国語の教科書に載っている筆順を参考にしたり、それまで習った文字の筆順を応用して覚えていったことと思います。この筆順の覚え方も、高学年になれば統一的に覚え直しても良いわけです。たとえば、テキスト 106 ページを開いて下さい。「筆順の原則」というのが載っていますね。こういった原則から学習し直しても良いはずで、繰り返し学習するという意味を、このように考えても良いのです。

なお、先生が手をあげて子どもたちといっしょに空中で字を書くことを、「空書」といいます。ベテランの先生は、子どもたちの方に向かって左手で、要するに左右対照の字を書いたりします。うまいものですね。空書については、テキスト 85 ページにも載っています。また、「筆順の原則」がなぜ難しいのか、なぜ筆順を覚えなければならないのかといった点は、これも「書写基礎研究」の授業もしくはインターネット「筆順のあり方について」（http://www.shosha.kokugo.juen.ac.jp/oshiki/ronbun/kiso96/ks96.htm#Hitu_ari）を参照してみてください。

さて、カリキュラムの構造はわかったとして、どのように繰り返し学習がおこなわれるのかという点について、考えなければなりませんね。これについては、テキストの 12 ページを開いてみてください。横に学年が配置され、縦には書写の学習内容が書かれています。

たとえば、先ほど例に出した「持ち方」でしたら、第一学年から第三学年まで 3 回繰り返されていることがわかります。また、中程の「組立て方」の場合、第三学年から第六学年まで繰り返されていますね。繰り返しつつ、質的向上を図っていくという構造が理解できるはずで、もちろん、教科書もこれを元に作成されているはずで、せつかく、これらが活かされた教科書であっても、使う先生がわかっていなければ困りますから、覚えておいて下さいね。

最初の問題提起のうち、「書写は何を学習しているのか!？」という答えをしたつもりですが、よろしかったでしょうか。

5 授業展開 (子どもたちの文字からスタートする書写-「手本を学ぶ」から「手本で学ぶ」へ)

さて、ここまでで、書写にも学習すべき内容があることはわかってもらえただろうと思います。

あと、問題提起したこととしては、

- 私たちは、「初日の出」がうまい子供を育てているのか?!
- 小学校一年生で習ったことが、高校生になっても身につけていないというのは、どういうこと?
- 社会人になるときに必要性に気付いたとして、その時に生かせる学習内容でありたい!(それが「生きる力」ではないのか!!)
- お手本のような字が書けることが目標?

という点に対処しなければなりません。これらに答えるために、私は次のことが大事なのではないかと考えています。

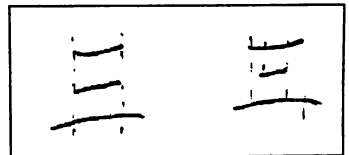
これらについて、うまく説明できるかどうかわかりませんが、お話ししてみることになりますね。

- その時目標を達成できなくても、いつか役に立つ力であること
←理解という部分を忘れないこと
- 子どもたちの字からスタートする指導であること
←「手本を学ぶ」から「手本で学ぶ」へ
←自分の文字を見直す力の育成
- 基礎基本としての合理性・汎用性の重視

5-1 気づく・理解するという事

この授業の中で、小学校の授業を再現する時間ありませんが、ちょっと手を動かしつつ、説明を続けたいと思います。まず、ノートに3cm くらいの正方形を書き、小学生になったつもりで、漢数字の「三」という字を書いてみて下さい。よろしいですか。

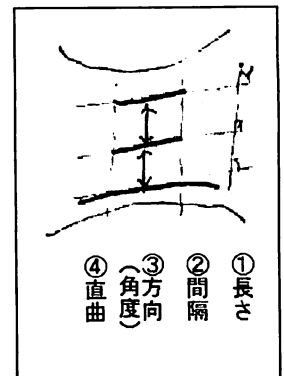
私は、真ん中の横画が上の横画に等しい、もしくは真ん中の横画が上の横画より短い、というパターンで書きました。このいずれのパターンも整って見えますね。それでは、皆さん自身が書いた「三」と私の書いた「三」とをくらべてみて下さい。皆さんは自分自身の書いた文字と、私の書いた文字を比較しました。そのことが、書写の学習としてどのような意味を持つのでしょうか。



5-2 手本中心から内容中心へ

ここで、いったん「三」という字でどのようなことが学習できるのか考えてみましょう。

もちろん、「三」を書く中で筆記具の持ち方ですとか、筆順、たとえば上から下へということ、また用筆について学習することもできるでしょう。ここでは、それらの中から字形に絞って考えてみることにします。次の図を見て下さい。



「三」はとても簡単な字ですが、字形の学習要素の内、4つの項目があることがわかりますね。先に見てもらった長さのほか、横画間の間隔、各横画の角度・方向、そり方に関する直曲という要素です。大学生の皆さんなら、当たり前のように把握し記憶できるでしょうが、小学生特に低学年の子どもたちには、すべての要素を把握しすべてに気をつけて書くということは難しいことかも知れません。先ほど私が示した二つの例は、この長さについて着目してもらうための例でした。

具体的な説明にはいる前に、ここで押さえておいてほしいことは、「三」という字をうまく書ける子どもたちを育てるのではなく、「三」という字を使って、他の字もうまく書ける子どもたちを育てようということ、そのためには、学習内容という視点で考えなければならないということです。このことが、先にお話した「手本を学ぶ」か「手本で学ぶ」という問題になります。お手本のような字が書けるようになるのはすごい技能だと思います。それに越したことはないのかも知れません。しかし、すべての人の目標がそこにある必要もないはずです。

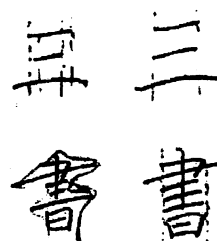
また、すべての人がいわゆるお手本のような字が書けるようになるということは、ある意味で個性をなくす方向性といえるかも知れません。現在、国語科書写は、学習指導要領において「言語事項」に位置づけられています。以前は、「表現」という領域に位置づけられていました。このことの賛否はありまじょうが、私は積極的な表現というよりも、日常生活において文字を書くという基礎的な能力の充実が先であろうと思います。しかし、その基礎的な能力の育成において、必要以上に個性を奪う必要もないと思うのです。この、社会に通用する記号としての文字、そのどのあたりまでを個性として良いのか、このことはまた別の機会に考えることとして、次の内容に進みます。

5-3 汎用性と容易な理解ということ

「三」という字の横画の長さについて比較してもらいましたが、もしこの知識が「三」だけでなく、他の多くの文字に応用できればそれに越したことはありません。そこに、学習内容重視のメリットがあると考えられます。

たとえば、先ほどから私は二つのタイプの「三」という字を書いてきました。一つは、真ん中の横画が短いタイプ、一つは、上二本の横画の長さが等しいタイプです。この二つのタイプを見て、どちらが望ましいと感じますか？ また先ほど自分で書いてみた「三」という字を見たとき、どちらのタイプで書いているのでしょうか？

実はこのどちらで書いても全く問題はありません。どちらも正しい字です。ただし、書写指導上どちらがより望ましいかという点では、少し考えてみる必要があるのです。試しに書道の「書」という字を書いてみて下さい。「三」は非常に単純な構造の字ですし、おそらく「三」という字の横画のバランスが、難しい、整えにくいとは感じないのではないのでしょうか。それに対して、「書」という字はたくさん横画がありますね。そして、このたくさんの横画の長さのバランスについて、



自信があるでしょうか？

「書」という字も、私は二つのタイプを用意しました。ひとつは、それぞれの横画の長さが違うタイプ、ひとつは、横画の長さを統一して一画のみ強調したタイプです。どうでしょう、気がつきましたか？ 「三」という字であれば真ん中の横画短く書くタイプ、「書」という字であればすべての横画の長さを変えてバランスを取るタイプ、これらはその字その字で、学習する内容が違ってしまいます。それに対して、基本的に横画の長さをそろえるということを学習し、一画のみを強調するという学習内容は、複数の横画がある文字のほとんどに応用することが可能ですよね。これを、長さの統一と一画強調といいます。

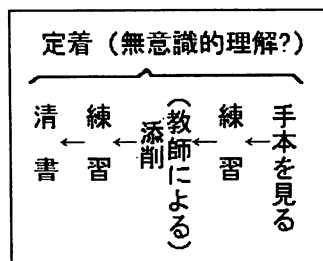
このように、その字を学習するのではなく、多くの文字について使える知識を学習し、応用させて練習することが書写指導において重視されるべきだと思います。それが一点目の汎用性ということです。

もちろん、バランス感覚に優れた人であれば、すべての横画の長さを変えつつ整った読みやすい字を書くことが可能でしょう。しかし、ごく一般の人、また小学生にとってこれだけたくさんの横画のバランスを整えるのは容易でないはずですよ。とすれば、私たちは難しいバランスを子どもたちに要求する必要もないと考えられますね。私は、まず基本的なことを学習させ、その上でバランス感覚に優れた子供であればそれ以上のことも学習しても良いと思うのです。まず、簡単にできることから初めて自信を持ってもらうということを優先させたいのです。それが二点目の「容易に理解できる基本的内容を」ということになります。

5-4 これまでの書写の授業のイメージ

次に、授業の展開を考えてみましょう。これまでおこなわれてきた書写の授業の多くは、次のようなパターンであったと考えます。毛筆を用いた授業をイメージしてみてください。

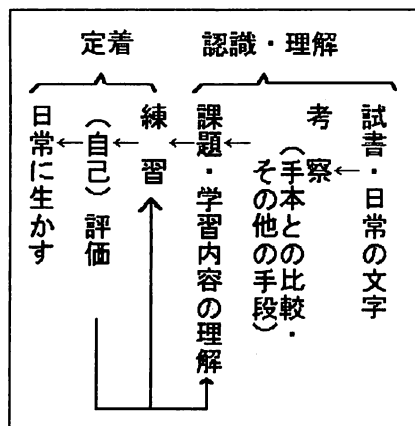
要するに、その日に学習する手本が載っている教科書のページを開きます。そして、手本をよく見るように指示、またどこに着目すべきかといった指示を受けます。そして、手本を見ながら練習をします。途中で先生のところへ持ってくるようにという指示を受け、子どもたちは書いたものを朱墨で添削してもらったりします。その後、再度練習をし、授業の終わりあたりには、清書の指示があって、小筆で名前を書き入れ提出する。場合によっては提出した清書を先生が直して再度返してくれることもあるでしょうし、教室に張り出してもらえることもあるでしょう。一概にはいえませんが、このあたりが一般的な書写の授業、毛筆の授業だったのではないのでしょうか。



5-5 気付く・理解という点からの授業

次の図を見て下さい。先の授業展開では、手本を優れたものとして絶対的に認め、それに近づくことが目標ようになっていました。それに対してこの図では、最初に子どもたち自身の文字、すなわち試しに書いたもの、試書、もしくは日常書いている文字があります。そして、自分自身

の文字をよりよいものにするために、手本との比較、友達
の文字との比較をおこなうことで、学習内容の把握・理解
といった段階があります。たとえば、「三」の例で真ん中
の横画が長かった人は、それを直すことを自分の課題とす
るということです。その課題を、実際に書く文字で実現す
る段階が、練習ということになります。その後、課題が実
現できているかどうかといった自己または他者の評価によ
るフィードバックがあっても良いですね。そして、まとめ
の段階としては、清書ではなく、日常の文字に生かせるか
どうかということをおきました。せっかく学習しても、清
書の時だけ使える知識・技能ではなく、普段に生かせることが大切ではないかということです。



まだまだ実感としてわからないかも知れませんね。先ほど皆さんには、「三」「書」という字を書
いてもらいました。そして、横画の長さについて比較しました。これが、この図における比較、
そして学習内容の把握と考えたら少しわかってもらえるでしょうか。

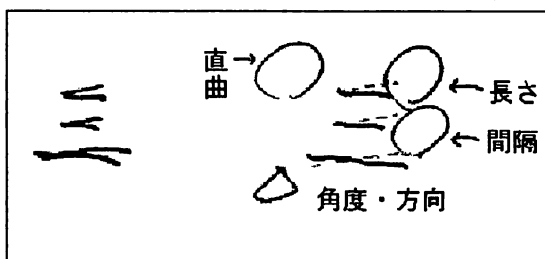
このように考えてみると、先の図のようなパターンでは、あまりに理解という側面、もう少し
詳しくいうと、自分の字を見つめ、より良くするために何を学習すべきかという視点が欠如して
いたように感じられないでしょうか！

5-6 評価・添削という点からの補足

どうでしょうか。まだびんとこないかも知れませんね。評価・添削という点から、もう少し補
足をしましょう。短時間でお話しする必要から、少々極端な例でお許し下さい。

たとえば、小学校で教えているとして、子どもたちの字を添削する必要があったとします。仮
に、ある子どもが、次のような字を提出もしくは持ってきました。どうしますか。仮に毛筆で書
かれたものであったとしたら、朱墨で直すかも知れませんね。

図の左側のように直してあげたとしたらど
うでしょうか？ もしかしたら、これを受け
取った子どもは、自分の字は書き始めの一点
しか良くない、とってしまうかも知れませ
んよ。また先生のきれいな線に見とれて、こ
んな線が書きたいと思うかも知れません。こ



れが良い方向にしてくれたら良いのですが、逆に子どもが自信を失う、自分の字はどうせこん
なものだ、といった方向にいつてしまったら、あまりに悲しいことです。

一方、図の右のパターンはどうでしょうか。「三」で学習できる内容は、4点ありました。学習
内容という視点で見たとき、この例は、4点のうち3点までそこそこできています。学年にもよ
りますが、3つは○をつけてあげて良いのではないのでしょうか。そして、「少し右上がり」とい
う点のみ気をつけるように指示したらどうでしょう。これなら、子ども自身が良いところと直す

べきところが把握できるのではないかと思うのです。もちろん、実際にはこんなにうまくいかないでしょうが、考え方として忘れないでほしいのです。

5-7 今日の最後に、是非お願い

授業時間も終わりに近づいてきました。いくつかお願いしたいことがあります。

まず、第一点目の注意として次のことを補足しておきます。お話した考え方は、すべての学年でいつも同じようにおこなうべきだと考える必要はありません。

たとえば、小学校1年生で字を書き始める段階においては、ドリル的な学習ですとか、点線をなぞるなど、理論ではなくひたすら練習する段階も必要ははずです。また、書き初めとして、毛筆でその年の目標を書いてみるなどの学習もあって良いはずです。もちろん、学習した内容を日常生活に生かすような方策がなければ、せっかく学習した内容も生きません。

なお、この時間内にこれらすべてについてお話することはできません。テキスト 78 ページ以降に、「指導計画と指導方法」について詳しく書かれています。必ず、ここを読んでおいて下さい。81 ページには、指導過程が載っています。多少、私がお話したことと異なる部分があっても、基本的には同じ考え方に立っています。82 ページ以降には、指導方法として、導入・展開・練習などそれぞれの段階における工夫が載っています。90 ページあたりには、水書板ですとか OHP の利用なども書かれています。さらに、96 ページ以降には、指導案の例が載っています。特に、教育実習にいくときなどは、必ずこれらのページに再度目を通しておくことを約束して下さい。

6 おわりに

以上、一部とはいえ授業のほぼそのままの記録である。なお、具体的な作業の指示や、ビデオを見る部分などは省略しているのでご了承いただきたい。

はじめにお断りしたように、本稿はまずそのままの記録を提示することで、研究素材としてもらうことを意図している。授業者自身としては、学生自身が作業・調査・発表・体験する活動をさらに盛り込むべきであるという反省を持っている。これ以上の検討については、研究大会での討議を待ちたい。

¹ 竹之内裕章「教員養成カリキュラムにおける書写・書道教育のあり方—中学校教員養成課程の場合—」『書写書道教育研究』第1号,1987.03

宮沢正明「中学校国語免許状のための「書道（書写を中心とする）」の在り方—教員志望学生の書写教育観から、中学校国語免許状のための「書道（書写を中心とする）」の在り方を考える」、『書写書道教育研究』第1号,1987.03

² 小名木康佑他「新免許法（書写・書道）への対応—全国調査によるその実情と考察—」、『書写書道教育研究』第4号,1990.03

連 盟 の あ ゆ み
連 盟 役 員 一 覧
大 会 役 員 一 覧
連 盟 規 約

石川県書写書道教育連盟のあゆみ

1987. 1. 23 有志が集い県下に校種一貫した書写書道教育研究組織設立に向けて懇談する会を発足させ
(昭和62年) る。(1988. 2. 26迄に9回の会合を開く)
1988. 4. 22 石川県書写書道教育懇談会と改称し第1回の会合を持つ [金沢大学教育学部書道演習室]
(昭和63年) (1995. 10. 5迄に48回開催する。)
1989. 8. 29 石川県書写書道教育連盟設立総会 [ホテル六華苑]
(平成元年) (平成2年度に第1回石川県書写書道教育研究大会開催することを決定)

平成元年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

| | | |
|------|------------------------------------------|-----------------|
| 名誉顧問 | 金子曾政<元金沢大学学長> | |
| 顧問 | 南 和男<石川県教育長> | |
| 相談役 | 北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清 | |
| 会長 | 藤 則雄<金沢大学教育学部長> | |
| 副会長 | [石川県教育委員会学校指導課長] | 三宅正敏 |
| | [金沢市小学校教育研究会書写部長] | 河本隆成<金沢市立馬場小教頭> |
| | [金沢市中学校教育研究会習字部長] | 大野重幸<金沢市立金石中校長> |
| | [石川県高等学校教育研究会書道部会長] | 佐藤政俊<金沢女子高校長> |
| | [石川書写の会会長] | 山田泰正<鹿島町立越路小校長> |
| | [金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] | 法水光雄<金沢大学助教授> |
| 理事長 | [金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] | 兼 任 |
| 副理事長 | : 幼・保部: 嘉門久直<森本幼稚園長> | |
| | : 小学校部: 森川登夫<津幡町立中条小校長> 谷村修次<小松市立蓮代寺小校長> | |
| | : 中学校部: 松寺淳照<金沢市立森本中教頭> | |
| | : 高校部: 中山武久<津幡高校教諭> | |
| 監事 | 吉田一郎<小松市立向本折小校長> | |
| | 木本峰生<七尾市教育委員会学校教育課長> | |
| 理事 | : 県教委学校指導課: | |
| | [小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] | 永井志津子 |
| | [高等学校(芸術科書道)担当指導主事] | 高沢幹夫 |

* 金沢地区

- : 幼・保部: 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
- : 小学校部: 林 道子<南小立野小教諭> 中川晃成<館野小教諭>
- : 中学校部: 干場和子<野田中教諭> 古本佳世<野田中教諭>
- : 高校部: 林 昭悦<金沢女子高教諭> 石浦義彦<金沢泉丘高教諭>
- : 障害児学校部: 南 進 <県立養護学校教頭>

*加賀地区

- : 小学校部: 六田孝子<三谷小校長>川筋登史己<向本折小教頭>市村良二<木場小教諭>
: 中学校部: 阿戸壯一郎<丸ノ内中教頭>
: 高校部: 東野洋子<小松市立女子高教諭>北室正枝<金沢西高講師>
: 障害児学校部: 川上千鶴子<小松養護学校高等部主事>

*能登地区

- : 小学校部: 西野和代<天神山小学校長>福田教導<金ヶ崎小学校教頭>
: 高校部: 嚙喜代子<飯田高校教諭> 大場豊治<七尾高校教諭>

事務局

- : 事務局長: 永江芳教<金沢商高教諭>
: 副事務局長: 久田英夫<金沢中央高校教諭> 中川晃成<館野小教諭>
: 庶務部: 部長・中田稚子<森本中教諭> 副部長・宮嶋雅美<明和養護学校教諭>
: 会計部: 部長・佃さえ子<千代野小教諭> 副部長・八田和幸<鳴和中教諭>
: 研究部: 部長・金田京子<宇ノ気小教諭> 副部長・嵐 雪絵<金大付属中講師>
: 会報部: 部長・板橋法子<河南小教諭> 副部長・西尾恵美子<中島小教諭>大坂育代<湯野小教諭>
: 研修部: 部長・八田和幸<鳴和中教諭> 副部長・北村千恵<山中小教諭>
: 調査部: 部長・大浦 努<大浦小教諭> 副部長・宮崎聡美<松波小教諭>西川真理<野々市小教諭>

11. 15 第4回全国大学書写書道教育学会・平成元年度全国大学書道学会
~17・平成元年度財団法人全国書道教育部門会《後援》

12. 1 第1回理事会 [金沢商業高等学校]

12. 10 『石川県書写書道教育』(創刊号)発行

1990. 5. 18 第2回理事会 [金沢商業高等学校]

(平成2年)10. 1 『石川県書写書道教育』(第2号)発行

11. 19 第1回石川県書写書道教育研究大会

[金沢市立南小立野小学校・金沢市立野田中学校・石川県立金沢泉丘高等学校]
第3回理事会

1991. 2. 23 第4回理事会

(平成3年)3. 1 『石川県書写書道教育』(第3号)発行

6. 4 第5回理事会 [金沢商業高等学校]

10. 30 『石川県書写書道教育』(第4号)発行

11. 18 第2回石川県書写書道教育研究大会

[野々市町文化会館・野々市町立野々市小学校・石川県立養護学校]
第6回理事会

1992. 3. 26 第7回理事会 [金沢ガーデンホテル]

(平成4年)3. 30 『石川県書写書道教育』(第5号)発行

5. 28 第8回理事会 [金沢中央高等学校]

10. 20 『石川県書写書道教育』(第6号)発行

11. 18 第3回石川県書写書道教育研究大会 [金沢市立鳴和中学校]
第9回理事会

1993. 3. 30 『石川県書写書道教育』（第7号）発行
(平成 5年) 6. 4 第10回理事会 [金沢中央高等学校]

11. 18 第4回石川県書写書道教育研究大会
[石川県立金沢商業高等学校・金沢市立富樫小学校・石川県立金沢泉丘高等学校]
第11回理事会

1994. 3. 31 『石川県書写書道教育』（第8号）発行
(平成 6年) 6. 4 第12回理事会 [金沢中央高等学校]
第4回石川県書写書道教育研究大会第1回実行委員会

10. 19 第5回石川県書写書道教育研究大会 [小松市立女子高等学校・小松市立安宅小学校]
第13回理事会

12. 1 『石川県書写書道教育』（第9号）発行

1995. 3. 30 『石川県書写書道教育』（第10号）発行
(平成 7年) 6. 6 第14回理事会 [金沢商業高等学校]

9. 20 『石川県書写書道教育』（第11号）発行

10. 19 第6回石川県書写書道教育研究大会 [ラビア鹿島・鹿島町立越路小学校]
第15回理事会

1996. 3. 『石川県書写書道教育』（第12号）発行
(平成 8年) 4. 25 第16回理事会 [金沢商業高等学校]

6. 6 第17回理事会 [金沢商業高等学校]

10. 『石川県書写書道教育』（第13号）発行

11. 21 第7回石川県書写書道教育研究大会 [金沢市立弥生小学校・石川県立金沢中央高等学校]
第18回理事会

1997. 3. 『石川県書写書道教育』（第14号）発行
(平成 9年) 6. 25 第19回理事会 [六華苑]

10. 『石川県書写書道教育』（第15号）発行

11. 21 第8回石川県書写書道教育研究大会 [加賀市南郷小学校・加賀市文化会館]
第20回理事会

1998. 3. 『石川県書写書道教育』（第16号）発行
(平成10年) 7. 18 第21回理事会 [六華苑]

10. 『石川県書写書道教育』（第17号）発行

11. 21 第9回石川県書写書道教育研究大会 [内灘町立大根布小学校・内灘町文化会館]
第22回理事会

第10回石川県書写書道教育研究経過報告

1999. 3. 『石川県書写書道教育』（第18号）発行
(平成11年)
- 5. 14 第71回石川県書写書道教育懇談会 [金沢泉丘高校]
 - 5. 28 第72回石川県書写書道教育懇談会 [フランドィー]
 - 6. 16 第73回石川県書写書道教育懇談会 [六華苑]
第23回理事会 [六華苑]
 - 7. 3 第10回石川県書写書道教育研究大会第1回実行委員会 [ワークバル七尾]
 - 8. 第1次案内発送
 - 9. 4 第74回石川県書写書道教育懇談会 [フランドィー]
 - 9. 第2次案内発送
『石川県書写書道教育』（第19号）発行
公開授業指導案検討
 - 9. 30 第75回石川県書写書道教育懇談会 [フランドィー]
 - 10. 5 第10回石川県書写書道教育研究大会第2回実行委員会 [天神山小学校]
 - 10. 19 第10回石川県書写書道教育研究大会 [七尾市立天神山小学校・七尾サンライフプラザ]
第24回理事会

石川県書写書道教育研究大会のあゆみ

1990. 11.19 第1回石川県書写書道教育研究大会

- 「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」
- 豊かな体験を通して感動する心を求めて—
- 文字意識を高めるための基礎基本のあり方—
- [金沢市立南小立野小学校・野田中学校・石川県立金沢泉丘高等学校]
- ・公開授業（小学2年・中学1年・高校1年）
- ・記念講演「新学習指導要領のめざす書写書道の学習指導」
久米 公先生（文部省視学官・千葉大学教授）

1991. 11.18 第2回石川県書写書道教育研究大会

- 「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」
- 豊かな体験を通して感動する心を求めて—
- 文字意識を高めるための基礎基本のあり方—
- [野々市町文化会館・野々市町立野々市小学校・石川県立養護学校]
- ・公開授業（小学校1年・6年）養護学校（学校公開／クラブ活動等）
- ・記念講演「児童生徒の心をひきつける具体的な指導法」
續木湖山先生（帝京大学教授）

1992. 11.18 第3回石川県書写書道教育研究大会

- 「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」
- 豊かな体験を通して感動する心を求めて—
- 文字意識を高めるための基礎基本のあり方—
- [金沢市立鳴和中学校]
- ・公開授業（中学校1年）
- ・記念講演「学習指導の最適化のために」
久米 公先生（千葉大学教授）

1993. 11.11 第4回石川県書写書道教育研究大会

- 「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」
- 豊かな体験を通して感動する心を求めて—
- 文字意識を高めるための基礎基本のあり方—
- [石川県立金沢商業高等学校・金沢市立富樫小学校・石川県立金沢泉丘高等学校]
- ・公開授業（小学校3年）（高等学校1年）
- ・記念講演「江戸時代の書教育—川柳に見る手習い—」
田中 東竹先生（実践女子大学教授）

1994. 10.19 第5回石川県書写書道教育研究大会

- 「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」
- 文字意識を育て自ら学ぶ意欲を高める書写指導のあり方—
- 古典との出会いを大切に感動を分かち合う心を求めて—
- [小松市立女子高等学校・小松市立安宅小学校]
- ・公開授業（小学校6年）（高等学校1年）
- ・記念講演「文字感覚を養い自ら学ぶ意欲を高める書写書道教育のあり方」
柳下昭夫先生（東京家政大学講師・前教育課程審議会委員）

1995. 10. 20 第6回石川県書写書道教育研究大会

- 「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」
—知的な遅れを持つ生徒における余暇指導 —書道を通して—
—自己批正とペア学習を生かし、文字意識を高める書写学習のあり方—
[ラピア鹿島・鹿島町立越路小学校]
・公開授業（小学校5年）研究発表（養護学校）
・記念講演「漢字は生きている」
浦野俊則先生（二松学舎大学教授）

1996. 11. 21 第7回石川県書写書道教育研究大会

- 「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」
—書きたい意欲を持たせるために—
[金沢市立弥生小学校・石川県立中央高等学校]
・公開授業（小学校4年）（高等学校2年次）研究発表（中学校）
・記念講演「意欲を高めるための書写書道教育」
平形精一先生（静岡大学教授）

1997. 11. 21 第8回石川県書写書道教育研究大会

- 「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」
—一人ひとりがめあてを持ち、文字意識を高める授業をめざして—
[加賀市立南郷小学校・加賀市市民会館]
・公開授業（小学校4年）研究発表（中学校・高等学校）
・記念講演「実験を通して考える書写・書道」
—— 「手本が無くても書ける」をめざして ——
宮澤正明先生（山梨大学助教授）

1998. 11. 2 第9回石川県書写書道教育研究大会

- 「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」
[内灘町立大根布小学校・内灘町文化会館]
・公開授業（小学校3年）研究発表（中学校・大学）
・記念講演「これからの書写・書道教育の方向と課題」
平形精一先生（静岡大学教授）

1999. 10. 19 第10回石川県書写書道教育研究大会

- 「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」
[七尾市立天神山小学校・七尾サンライフプラザ]
・公開授業（小学校5年）公開学習（幼稚園）研究協議
・記念講演「書写・書道教育における今日的課題」
久米 公先生（大東文化大学教授）

平成11年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

名誉顧問 金子曾政<元金沢大学学長>

顧問 西 貞夫<石川県教育長>

相談役 北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清

参与 吉田一郎 森川登夫 木本峰生 谷村修次 南 進 河本隆成

会長 藤 則雄<金沢経済大学教授・前金沢大学教育学部長>

副会長

| | |
|-----------------------|------------------------------------|
| [石川県教育委員会学校指導課長] | 村井加代子 |
| [石川県私立幼稚園協会理事長] | 源 通 <妙源寺幼稚園園長> |
| [金沢市小学校教育研究会書写部長] | 岩田久美子<金沢市立新神田小学校教頭> |
| [金沢市中学校教育研究会書写部長] | 南 修平<金沢市立犀生中学校校長> |
| [石川県高等学校教育研究会書道部会長] | 村西 一 <県立津幡高等学校校長> |
| [石川県特殊教育諸学校校長会代表] | 藤 昭彦 <県立愛育養護学校校長> |
| [石川書写の会会長] | 丹後誠仁 <鹿西町立能登部小学校校長> |
| [金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] | 押木秀樹 <上越教育大学助教授> <前金沢大学教育学部助教授> |

理事長 中山武久<県立金沢泉丘高校教諭>

副理事長

| | |
|---------------|---------------------------------------------------|
| : 小学校部: | 林 道子<金沢市立三馬小学校教諭>[市小教研書写副部長] 北野勝彦<小松市立能美小学校校長> |
| : 中学校部: | 桶成好江<田鶴浜町立田鶴浜中学校教諭> 森川 徹<津幡町立津幡南中学校校長> |
| : 高校部: | 林 昭悦<県立津幡高等学校教諭> |
| : 盲・ろう・養護学校部: | 橋本 護<県立養護学校教頭>[県特殊教育諸学校 教頭会代表] |

監事 富樫慶樹<金沢市立芝原中学校校長> 濱 和子<能登島小学校教頭>

理事

* 石川県教育委員会

| | |
|------------------------|---------------------|
| [小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事] | 高 絹子 <旭陽教育センター指導主事> |
| [高等学校(芸術科書道)担当指導主事] | 塩 泰尚 <学校指導課指導主事> |

* 金沢地区

- : 幼・保部： 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
- : 小学校部： 大浦 努<花園小学校教諭> 中川晃成<菅原小学校教諭>
松井喜美子<大根布小学校教頭>
- : 中学校部： 福島絹子<長田中学校教諭> 古本佳世<鳴和中学校教諭>
- : 高校部： 石浦義彦<金沢伏見高校教諭> 永江芳教<金沢商業高校教諭>
久田英夫<金沢中央高校教諭>
- : 大学部： 北室正枝<金沢大学講師>

* 加賀地区

- : 小学校部： 阿戸壯一郎<松陽中学校校長> 川筋登史己<中海小学校校長>
- : 中学校部： 小座間美智子<東和中学校教諭> 高市比呂子<東和中学校教諭>

* 能登地区

- : 小学校部： 福田教導<越路小学校校長> 帽子山瑞枝<堀松小学校教頭>
- : 中学校部： 山田寿一 <七尾地方教育事務所管理主事>
- : 高校部： 齋喜代子<県立水産高校教諭> 大場豊治<中島高校教頭>
- : 盲・ろう・聾学校部： 清水徳典<七尾養護学校教諭>

事務局

- : 事務局長： 中川晃成<菅原小学校教諭>
- : 副事務局長： 岩田稚子<金石中学校教諭>

- : 庶務部：
 - 部長・岸瑞代<大聖寺高校講師> 副部長・山口雅美<額小学校教諭>
 - 部員・北村千恵<南郷小学校教諭> ・山沢聡美<中海中学校教諭>
 - ・柿木千鶴<松南小学校教諭> ・中島知子<小立野小学校教諭>

- : 会計部：
 - 部長・佃さえ子<松陽小学校教諭> 副部長・西尾恵美子<福岡小学校教諭>
 - 部員・水上真由美<医王養護学校教諭>

- : 研究調査部：
 - 部長・板橋法子<那谷小学校教諭> 副部長・北野京子<大根布小学校教諭>
 - 部員・寺井純子<日置小学校教諭> ・坂井雪絵<大根布小学校教諭>
 - ・唐津清美<蝶屋小学校講師> ・西脇良樹<小丸山小学校教諭>

- : 会報部：
 - 部長・八田和幸<浅野川中学校教諭> 副部長・田中学<松任高校教諭>
 - 部員・中辻育代<浜小学校教諭> ・吉田美晴<中央小学校芳齋分校教諭>
 - ・磯野美佳<金大付属中学校講師> ・新谷幸一<条南小学校教諭>

第10回石川県書写書道教育研究大会役員

—敬称略—

| | | | | | | |
|--------|---------|-----------|---------------------------|-------|------|------|
| 顧問 | 金子曾政 | 西 貞夫 | | | | |
| 参与 | 北西正二 | 坂口 敏 | 田島庄吉 | 久田久信 | 氷田茂良 | 横西 清 |
| | 吉田一郎 | 森川登夫 | 木本峰生 | 谷村修次 | 南 進 | 河本隆成 |
| 大会長 | 藤 則雄 | | | | | |
| 副大会長 | 村井加代子 | 源 通 | 岩田久美子 | 南 修平 | 村西 一 | |
| | 藤 昭彦 | 丹後誠仁 | 押木秀樹 | 中山武久 | | |
| 実行委員長 | 西村由紀子 | | | | | |
| 副実行委員長 | 林 道子 | 北野勝彦 | 桶成好江 | 森川 徹 | 林 昭悦 | 橋本 護 |
| 実行委員 | 〔部担当〕 | 【企画研修部】 | 研究授業：研究協議会：講演会 | | | |
| | | | 林 昭悦 濱 和子 帽子山瑞枝 山田寿一 | | | |
| | | 【庶務部】 | 大会案内：会場：受付：接待：駐車場 | | | |
| | | | 石浦義彦 福田教導 大場豊治 | | | |
| | | | 卜部恭子 角三伸子 狩山玲子 川崎律子 木下寿美子 | | | |
| | | | 佐原加津美 鷹合悦子 田中浩美 平泉元子 | | | |
| | | 【研究集録編集部】 | 研究集録編集・発送 | | | |
| | | | 久田英夫 | | | |
| | | 【記録部】 | 記録・写真 | | | |
| | | | 永江芳教 清水徳典 西脇良樹 橋場美貴 | | | |
| | | 【会計部】 | 会計 | | | |
| | | | 齋喜代子 東間郁子 | | | |
| 大会事務局 | 【事務局長】 | 中川晃成 | 【副事務局長】 | 岩田稚子 | | |
| ○は子-7 | 【庶務部】 | 0岸 瑞代 | s 山口雅美 | 北村千恵 | 山沢聡美 | |
| sはサ子-7 | | 柿木千鶴 | 中島知子 | | | |
| | 【集録編集部】 | 0八田和幸 | s 板橋法子 | 田中 学 | 中辻育代 | 吉田美晴 |
| | | 磯野美佳 | 新谷幸一 | | | |
| | 【記録部】 | 0北野京子 | s 坂井雪絵 | 寺井純子 | 西脇良樹 | 唐津清美 |
| | 【会計部】 | 0佃さえ子 | s 西尾恵美子 | 水上真由美 | | |

石川県書写書道教育連盟 規約

- 第 1 条 (名 称) 本会は、石川県書写書道教育連盟と称する。
- 第 2 条 (本部・事務局) 本会の本部を金沢大学教育学部内におき、事務局を事務局長の在勤校におく。
- 第 3 条 (目 的) 本会は、授業研究を中心として、県内の幼稚園(保育園・保育所)・小学校・中学校・高等学校・大学(短期大学・専門学校)・障害児学校等の一貫した書写書道教育と書道文化の更なる充実発展に努めるとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする。
- 第 4 条 (事 業) 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。
- (1) 研究会の開催
 - (2) 会報の発行
 - (3) 関連する学会・研究会・内外諸機関等との連絡と協力
 - (4) 講演会・講習会の開催
 - (5) 調査研究
 - (6) その他必要な事業
- 第 5 条 (組 織) 本会は、県内の幼稚園(保育園・保育所)・小学校・中学校・高等学校・大学(短期大学・専門学校)・障害児学校の教員及び本会の目的に賛同するものをもって組織する。
- 第 6 条 (役 員) 本会に、下記の役員をおく。
- 会 長 1 名 副会長 若干名 理事長 1 名
副理事長 若干名 監 事 若干名 理 事 若干名
事務局長 1 名 副事務局長 若干名
- (1) 事務局には、次の六部を設け、各部とも、部長 1 名 副部長 1 名、部員若干名をおくものとする。
・庶務部・会計部・研究部・会報部・研修部・調査部
 - (2) 本会に、名誉顧問・顧問・相談役・参与を推戴することができる。
 - (3) 役員を選出と任期は、下記のように定める。
 - (I) 役員は理事会において選出する。
 - (II) 役員は任期は一か年とする。ただし、再任は妨げない。
- 第 7 条 (理事会) 本会の理事会は、本会の運営及び事業に関する重要事項を審議決定する。
- (I) 理事会は、必要に応じて、会長が召集する。
 - (II) 理事会は、第 6 条における、会長・副会長・理事長・副理事長・監事・理事・事務局長・副事務局長・事務局各部長によって構成する。
- 第 8 条 (会 計) 本会の経費は、会費及びその他の収入をもってこれにあてる。
- 第 9 条 (会計年度) 本会の会計年度は、4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。
- 第 10 条 (監 査) 本会の会計は、監事によって監査をうける。
- [附 則]
- 第 11 条 規約の改訂は、理事会の議決を経なければならない。

平成 元年 8 月 29 日 制定

平成 2 年 5 月 18 日 一部改正

中国品Ⅱ古硯・印材・筆・墨・硯・紙
国内品Ⅱ画仙紙・色紙・各種額縁・水墨画用品

文房四宝

文真堂

金沢市尾張町二丁目二二―二八
電話(〇七六)二六四一―八三六

東京書籍

北陸出張所：金沢市尾山町1-8 朝日生命金沢ビル
〒920-0918 ☎076-222-7581 FAX076-232-2719

書の心と智慧を凝縮した、
珠玉の名言を集大成！
初めての書の名言辞典！

書道

名言辞典

宇野雪村
西林昭一〔編著〕
福本雅一

A5判上製本カバー付・ケース入り・本文七八八頁・カラー口絵四頁 定価七八〇〇円(税込)



中国三千年の書作品や古今東西の芸術理論を縦横に取り上げながら、
書の理論と美学の原理を分析・解明する。

書の美学

陳廷祐 著・成家徹郎 訳

四六判二八〇頁 定価二五〇〇円(税込)

飯島春敬編・A4判三九六頁 定価二〇〇九四円(税込)

実技書の古典

日本・中国を代表する漢字・かなの名書150余種を技法中心に鋭く解
説する。臨書・做書作品を多数収録した書法百科事典

筆

株式会社

入木筆

博文堂本舗

〒639-1134 大和郡山市柳1の1
 TEL 大和郡山 07435-2-3251(代)
 FAX 07435-2-3253



◎ぼくえき本格派

中墨タイプ

中濃タイプ

墨磨職人SS型
 斜めになった墨池碗
 にこそ磨墨ノ極意が



桐油煙
 桐華墨液
 500ml



菜種油煙
 天爵墨液
 500ml

〒630-8357
 奈良市杉ヶ町39-1
 TEL (0742) 26-5611

株式会社 墨運堂

作品制作用から練習用まで常に良心的

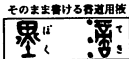
伝統と技術をほこる銘墨



油煙磨墨液
 天衣無縫

純松煙磨墨液
 松潤

書芸吳竹



個性ある色調
 油煙・青墨・茶墨・淡墨・各種



紫紺系黒
 純黒
 青系黒
 濃墨
 作品用書道液

株式会社 吳竹精昇堂

〒630-8670 奈良市南京終町7-576 電話0742(50)2050 東京・札幌・仙台・福岡

伝統的工芸品指定 熊野筆
 高級書道用筆墨硯

(株)久保田隼

筆匠 竹嶋

☎731-4215

本店 広島県熊野町 ☎(082)854-0009 番代
 東京 東京都台東区台東3-42-4
 書道殿堂東京久保田号ビル

筆

伝統的工芸品 熊野筆製造
 併設全日本書作家練成道場

熊野筆センター
 株式会社

一休園

本社 〒731-4200 広島県安芸郡熊野町1897 TEL082(854)0019(代)
 大阪営業所 〒580-0014 松原市岡6丁目5-50 TEL0723(35)0605
 東京営業所 〒225-0004 横浜市都筑区荏田東3-1-15-201 TEL045(942)4119
 "アンテナショップ"
 熊野筆センター 広島店 〒730-0013 広島市中区八丁堀5-29 TEL082(222)1919

- ・因州産紙
- ・書道用紙
- ・洋紙板紙
- ・包装資材

株式会社 因州屋

〒680-0912 鳥取市商栄町155番地
 TEL(0857)24-6611(代) FAX(0857)27-1811



類様の総合専門メーカー

株式会社 竹中美術工業

本社・工場/富山県高岡市内免4-6-33
 (〒933-0941) Phone 0766(21)6112(代)
 ファックス ☎0766(25)3851

額

株式会社

大 冒

折鶴マークは高級額のシンボルマークです。



◆事業内容 書道刷・額額・日本額額・洋額・割寸額・特注品・屏風・楕立・軸役の製造販売
 ●本社/広島県高岡市上下町上下1513-1 ☎084762-3517(代) FAX084762-4528
 ●東京営業所/東京都三軒下町東1-10-5 ☎0422-42-3085 FAX0422-42-3251
 ●富山営業所/富山県春日町6-14-24 ☎0849-41-8161 FAX0849-41-8048
 ホームページアドレス http://www.dainobu.co.jp

光村教育図書株式会社

〒141-0031東京都品川区西五反田2-27-4
TEL 03-3779-0581 FAX03-3779-0266

平成十一年度

光村図書版教科書完全準拠

小学校書写 児童用教材

書き方の練習

一・二年各上下 三～六年各一冊 三二〇円(税込)

B5拡大判 二四～三三頁 四色刷り

毛筆書き方の練習

三～六年各一冊 四二〇円(税込)

B4判 各三二枚(六四頁)

中学校書写 生徒用教材

中学・硬筆練習帳

B5判 四八頁 全学年共通 三五〇円(税込)

小学校書写 教授資料

毛筆書き方ビデオ

初・中・上級編 各九二二三円(税別)

VHS各巻 約三〇分 解説書付き

改訂版

字形と筆順

水田光風編著

四六判 二八〇頁 一五〇〇円(税込)

書道・水墨画用品専門店

文房四宝 絃 貴 堂

〒920-0002 金沢市千木1丁目33-1 TEL・FAX (076) 253-0618

公的資格を取ろう!!

文部省
認定

硬筆書写・毛筆書写検定

●後援—全国都道府県教育委員会

●試験の種類と程度

4級…基礎的な技術及び知識

3級…一般の技術及び知識

2級…専門的な技術及び知識

1級…高度な専門技術及び知識

●試験日(同日実施)

◎平成11年度第2回…11月21日(日)

◎平成11年度第3回…12年1月30日(日)
(毎年6月、11月、翌年1月の3回実施)

●試験地

全国主要都市、20名で試験会場設置可

●受験者携参考書刊行(申し込みは協会へ)

硬筆:手びきと問題集(定価900円〒310円)

毛筆:手びきと問題集(定価1,000円〒310円)

●受験料

| | 1級 | 2級 | 3級 | 4級 |
|----|--------|--------|--------|--------|
| 硬筆 | 4,120円 | 2,060円 | 1,550円 | 1,030円 |
| 毛筆 | 4,640円 | 2,680円 | 1,850円 | 1,030円 |

●特典

書写・書道教育に最適。公的資格のため履歴書に書け、国語力もつき、高校入試の調査書に書ける。

高校の単位認定に認められ、大学・短大の入試で優遇され、事務能率の向上にも役立つ。

■願書請求方法—宛名明記の返信用封筒

(80円切手貼付)と切手200円を同封し、協会にご請求ください。

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-41-3 TEL03-(3988)3581代

財団
法人

日本書写技能検定協会

祝

第10回

石川県書写書道教育研究大会

NSC 中村産業株式会社

中 村 栄 一

金沢市涌波3丁目6-13 〒920-0953

TEL(076)261-8569

FAX(076)224-8287

書画芸術の明日を創る

筆・紙・墨・硯

もろろん

筆 文

株式会社 賛交社

本社 京・山科区勤修寺東出町4-1 ☎075(572)8964
二条店 京・中京区河原町通二条西入 ☎075(222)0390

あすを築く教育のいしずえ

北陸青葉

学校教材販売

書道セット

かきかたノート

本田教材社

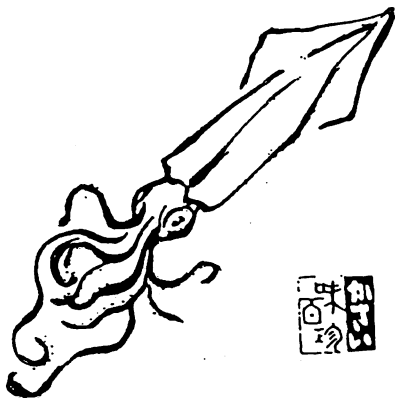
金沢市寺町1丁目3-26

☎(076)241-1339

デザイン・日本画・洋画材料・額縁

かわさき画材

金沢市寺町3丁目13の19 TEL (076)243-8244



味のかわさき

本社 / 〒921-8044 金沢市米泉町8丁目8番地

TEL (076) 247-2231

FAX (076) 247-3612

片町店 / 〒920-0981 金沢市片町1丁目7番17号

TEL (076) 262-9333

FAX (076) 262-9333

日本習字普及協会
川東京都文京区本郷3・4・5

墨場必携

名句を書くと

日本習字普及協会編

名句名言の五言七言・五言二句・
七言二句を、王羲之、王獻之、智
永、孫過庭等古典から選んだ行書
草書で表した、組合わせ自在で創
作容易な字典。範例と読下し添付

■墨場必携 唐詩選を書く

■墨場必携 白楽天を書く

■墨場必携 唐詩選律詩を書く

一回B6判48〜57頁・各3800円
〈税別〉

鳥馬 中枝

| | |
|-----|-------|
| 鳥馬 | 中枝 |
| 依依依 | 北少水川 |
| 風 | 的 的 的 |
| 越 | 越 越 越 |

写真・ビデオ制作 光画社

☎920-0902 金沢市尾張町1丁目7-8
☎金沢 076-264-3288(代) F A X 076-262-4537

第10回 石川県書写書道教育研究大会

きものと洋品

たかもり

津幡中央銀座商店街

TEL 076-289-2355

● 廣 告 看 板 一 般 ●

有限会社 **アサダ・デザイン看板**

代表取締役 浅田 徹

野々市町本町4丁目16-31 TEL 248-2367(代)



コンビニエンス・ストア Rabbit Foot

津幡店 / 河北郡津幡町浅田丙48-1 TEL (076)289-4612

宇ノ気店 / 河北郡宇ノ気町内日角中12 TEL (076)283-5302

全 国
菓子博 名誉大賞受賞

エムム 遊仙華 八っ房の梅 俱利伽羅山 不動も赤か

御進物に
お茶のひとときに
御愛用下さい

小泉菓子舗
津幡町 TEL 289-2637

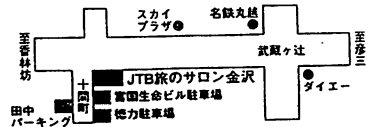
旅、こころ

パッケージツアーはもちろん、お客様のニーズにお応えしたオーダーメイドの旅まで、旅のことならなんでもお任せします。
私たちは、旅する人の心を大切に、もっと楽しい旅をお届けします。
旅する人の気持ちで……新しいJTB。



For Your Travelife

JTB旅のサロン金沢
〒920-0917 金沢市下権町30 (スカイプラザ前)
海外専用 ☎0120-64-7082 国内専用 ☎0120-64-7072



※お車でご来店のお客様は上記の駐車場をご利用下さい。
1時間無料券を差し上げます。
●営業時間 平日・土曜日/9:30~17:30 (日・祝日休業)

教材教具・視聴覚機器・OA機器・ワープロ・パソコン

株式会社 ダイシン

金沢市米泉8丁目105
TEL 243-1555
FAX 243-1783

印刷の

SHOWA

株式会社 正和工業所

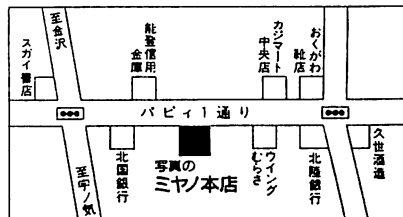
デザイン・写真撮影・オフセット・美術印刷・フォーム印刷・活版・図書出版・製袋・製本・和洋紙卸
 本社 / 〒920-0804 金沢市鳴和1丁目14-34
 TEL(076)251-5888(代) FAX(076)251-5889
 長町工場 / 金沢市長町3丁目7-17 TEL(076)221-0350
 直江工場 / 金沢市直江町イ63 TEL(076)237-5531

スタジオ写真

赤ちゃん・ご家族・成人式・ご入学・七五三・証明写真・商品撮影・
 婚礼写真・葬儀用写真・etc

写真の ミヤノ

- 本店 / 津幡町(パビィ1通り) ☎ 289-4181
FAX 289-2143
- 森本店 / マイモールモリモト ☎ 257-3780
- 新神田店 / 金沢市入江1丁目28 ☎ 291-8022



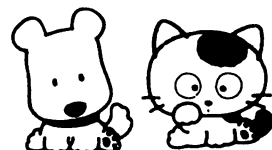
OA機器・事務器・文具・紙製品

百々商会

〒920-0202 金沢市木越1丁目69番地

TEL・FAX 257-2065

学校教材・文具・事務用品



奈良教材文具店

松任市新田町10-3
 TEL 076-274-6370

野球用品専門、スポーツ用品全般

辻野スポーツ

金沢・安江町アーケード街
TEL 263-7777(代)

TOYO PHOTO STUDIO

東洋写真館

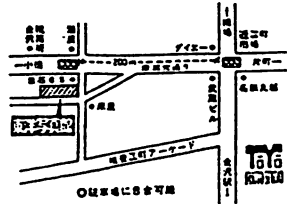
(スタジオ撮影 ビデオ撮影 出張撮影
スクールアルバム コマーシャルフォト)

営業時間 AM9:00-PM7:00

金沢市彦三町二丁目五-五 ☎920-0901

☎(076)231-6456

FAX(076)221-1097



額縁が安い。画材が安い!!

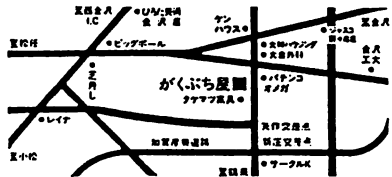
書道額

県下一の品揃

野々市のつるぎ街道

がくぶち屋

HIROTA



大和ハウジングより600m鶴来寄り

野々市町白山町104

TEL 076-294-0203

FAX 076-294-7050

トヨコ

日本の旅

世界の旅

VISA



豊かな感動のステージへ

東急観光

金沢支店

TEL076 (222) 0109

君がいれば、
そこがキャンパス。

感性とテクノロジーが、
快適な学生服を創造します。

北国被服株式会社

〒921-8031 金沢市野町4丁目7-5
TEL(076)241-3457 FAX(076)244-3235

Enjoy
Coca-Cola

北陸コカ・コーラボトリング株式会社

TRADE MARK REGD.

COLLABORATION

印刷・出版
MULTI-MEDIA

ともに考え、ともに伸びていける創造的な関係。
栄光プリントはコラボレーションを目指します。

 Creative & Communication
株式会社栄光プリント

〒920-0806 金沢市神宮寺3-4-17 TEL(076)251-3076 FAX(076)252-2917

<http://www.yume.or.jp/ec/eiko>

野田 誠光霊園 分譲中



星山石材株式会社

〒921-8112 金沢市長坂3丁目12番22号
TEL (076) 242-1644 (代)
FAX (076) 242-9493
菊川ショールーム 61-0333



漢方薬 民間薬 **ながえ薬局**

七尾市川原町市役所前通り
☎0767-53-5203

ななお調剤薬局

小丸山通り
☎0767-52-2092

石津表具店

京都市中京区壬生馬場町16-5
TEL 075 (812) 3318

小・中・高一貫した
書写・書道教育の

大阪書籍

〒 537-0001
大阪市東成区深江北2-1-1
TEL 06-6973-9801
FAX 06-6974-2691

日本画・洋画

襖貼
製
工
事
部

屏 | 額 | 掛
風 | 装 | 軸

美
術
部

岡田錦成堂

安江町13表具屋小路 ☎ 金沢 221-3658

祝 第10回石川県書写書道教育研究大会

きくざわ書店

七尾店・羽咋店・穴水店

Life and Technology

INAMI 教材

PHONE (076)222-0565 FAX (076)224-0581



金沢・北安江

TEL 231-6773
FAX 231-6940

学校教材なんでも

総合印刷・企画・編集

東井印刷所
金沢市糸田新町10-1
TEL (076) 280-1625
FAX (076) 280-1925

祝 第10回



石川県書写書道教育研究大会

有限会社 ヤマガミ共育社

〒921-8001 金沢市高島3-154
TEL 291-1250 FAX 292-8008 i-kazu@nsknet.or.jp

LOUNGE
NEW FLAMINGO



金沢・片町(スーパープラザセキ6F)
TEL(076)262-6808

ニューフラミンゴ

sports

いい汗ながそう shop

MM スポーツしよう
野々市町高橋町19-18
スポーツ

TEL (076)246-2488

備ハローバッティングセンター

草野球から学童・中学・高校野球まで野球情報が満載
<http://www.nsknet.or.jp/~hellobc/index.htm>
E-mail:hellobc@nsknet.or.jp

〒920-0016 石川県金沢市踏江町中丁179-3
TEL/076-223-0541 FAX/076-223-0562
営業時間 AM 9:00~PM 11:00

スナック 恵子

〒920-0981 金沢市片町2丁目21番6号(シンニチビル6F)
TEL(076)234-3222

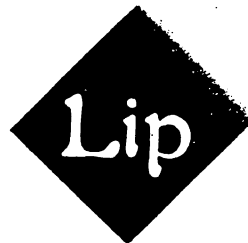


宝石・時計・メガネ

金沢宝石鑑別センター

日本宝石コンサルタント協会会員
株式会社
伊田

〒920-0901 金沢市彦三町2-3-11
TEL(076)221-7162(代)
FAX(076)221-3409



金沢市片町2-21-6シンニチビル2F
Phone 076-262-1919 〒920-0981

ゆの宿 岡田屋

TEL 0767-62-2228

湯の香 潮の香 さわやか



わくら

能登半島・和倉温泉

業務総合食料品販売

株式会社 **北 栄**

〒920-0023 金沢市北安江町441番地
TEL(076)262-8381(代表)

教育図書 新光社
教材一般

代表 山村外男

河北郡津幡町横浜い158番6
TEL(076)288-3835

信用第一、在庫豊富
建設資材総合センター

木谷金物株式会社

新店舗 石川県七尾市国分町イ部52-1
Tel (0767)53-2186 (代)
Fax (0767)53-5363

書籍・文房具・教材・教具

粟津書店

粟津祐治

〒924-0855 石川県松任市水島町168
TEL 277-0303
FAX 277-2505

コクヨスチール製品・紙・文具
事務用品・OA機器・結納品一式

白井紙文具店

七尾市小丸山台2丁目48番地
TEL (0767) 52-0809(代)
FAX (0767) 52-0879

参考書・心理検査・教材

教育統計会

〒930-8656 富山市奥井町16-47
TEL (0764) 31-6676(代表)
FAX (0764) 31-5831
〒920-0806 金沢市神宮寺2丁目12-22
TEL (076) 252-1245(代表)
FAX (076) 251-8461

諸紙・印刷・文房具・事務用品

鷹田弘文堂

代表 鷹田 弘

〒920-0831 金沢市東山3丁目10番43号
TEL・FAX 252-9341

あしたの教育を拓く

- 暁教育図書のエデュケーション・教材
- 毎日の学習教材「はつらつ」

北陸暁図書販売株式会社

金沢市石引4丁目4-4
☎(076) 232-2425(代)

新しい時代へ
新しい発想

企画・印刷・出版の分野から 新しい時代のメッセージ

能登印刷株式会社

本社●〒920-0855石川県金沢市武蔵町7番10号
TEL 076-233-2550(代) FAX 076-233-2559
工場●〒924-0013石川県松任市番匠町293番地
TEL 076-274-0084(代) FAX 076-274-0016
グループ会社●株式会社博文堂 シナジー株式会社



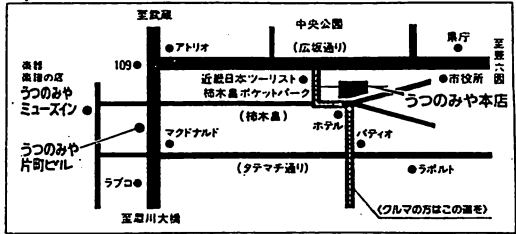
天徳院前 ・尼寺で食べる
 ・庵そば 庵うどん

しょう りゅう あん
 小庵

金沢市小立野四丁目二番三号
 TEL (076) 261-4321

“せせらぎの街 柿木島”

本 うつのみや (雑貨) Oops! (グッズ)



☎920-0962 金沢市広坂1丁目1番30号 TEL.076(234)8111(代)